

## 2001 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF001001	図学演習	2.0	1 年前期火曜 2 限	永田 喬	意匠 4
TF002001	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	2 年前期月曜 2 限	各教官	意匠 4
TF002002	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	1 年後期木曜 2 限	各教官	意匠 5
TF003001	デザインと人間	2.0	1 年前期木曜 5 限	各教官	意匠 5
TF004001	基礎造形演習	3.0	1 年前期火曜 3,4 限	瀧 徹	意匠 6
TF006001	デザインの歴史	2.0	1 年後期火曜 4 限	宮崎 清	意匠 6
TF007001	基礎人間工学	2.0	1 年後期火曜 5 限	勝浦 哲夫	意匠 7
TF008001	材料計画論	2.0	1 年後期水曜 3 限	青木 弘行	意匠 7
TF011001	製品デザイン論 I	2.0	1 年後期月曜 3 限	永田 喬	意匠 8
TF012001	視覚デザイン基礎演習	3.0	1 年後期金曜 4,5 限	宮崎 紀郎	意匠 8
TF013001	デザイン文化計画	2.0	2 年前期火曜 3 限	宮崎 清	意匠 9
TF015001	メディアデザイン論	2.0	2 年前期水曜 2 限	宮崎 紀郎	意匠 10
TF016001	C G 理論	2.0	2 年前期金曜 1 限	玉垣 庸一	意匠 10
TF017001	環境デザイン論	2.0	2 年前期木曜 2 限	清水 忠男	意匠 11
TF018001	環境デザイン表示論演習	3.0	2 年前期火曜 4 限隔週 2,4 2 年前期火曜 5 限	清水 忠男 <sup>他</sup>	意匠 11
TF019001	色彩科学	2.0	2 年前期金曜 4 限	日比野 治雄	意匠 12
TF021001	環境デザイン製図演習	3.0	2 年後期金曜 1,2 限	(八木 健一)	意匠 12
TF023001	造形力学論	2.0	2 年前期金曜 5 限	久保 光徳	意匠 13
TF024001	基礎デザイン論 I	2.0	2 年前期金曜 3 限	野口 尚孝	意匠 13
TF025001	基礎製品デザイン演習	4.0	2 年前期水曜 4,5 限	渡邊 誠	意匠 14
TF026001	製品デザイン論 II	2.0	2 年前期水曜 3 限	釜池 光夫	意匠 14
TF027001	視覚デザイン演習	3.0	2 年前期木曜 4,5 限	玉垣 庸一	意匠 15
TF028001	デザイン文化計画演習 I	3.0	2 年後期木曜 1,2 限	宮崎 清	意匠 15
TF029001	材料計画演習 I	3.0	2 年後期水曜 1,2 限	久保 光徳	意匠 16
TF030001	材料開発計画	2.0	2 年後期月曜 4 限	(菊地 紀洋)	意匠 16
TF031001	基礎デザイン論 II	2.0	2 年後期月曜 1 限	堀田 明博	意匠 17
TF032001	デザインシステム計画 I	2.0	2 年後期火曜 3 限	杉山 和雄	意匠 17
TF034001	製品人間工学	2.0	2 年後期月曜 5 限	勝浦 哲夫	意匠 18
TF035001	デザイン文化計画演習 II	3.0	3 年前期水曜 1,2 限	宮崎 清	意匠 18
TF036001	人間工学演習 I	5.0	3 年前期月曜 3,4,5 限	勝浦 哲夫	意匠 19
TF037001	材料計画演習 II	3.0	3 年前期月曜 1,2 限	青木 弘行	意匠 19
TF039001	デザインシステム計画演習 I	3.0	3 年前期金曜 3 限 3 年前期金曜 4 限隔週 1,3	杉山 和雄	意匠 20
TF040001	製品デザイン演習 II	3.0	3 年前期木曜 2,3 限	永田 喬	意匠 20
TF041001	環境デザイン演習 I	3.0	3 年前期金曜 4 限隔週 2,4 3 年前期金曜 5 限	清水 忠男	意匠 21
TF042001	知覚心理学演習 I	3.0	3 年前期火曜 3 限 3 年前期火曜 4 限隔週 1,3	日比野 治雄	意匠 21
TF043101	造形デザイン演習・平面	3.0	3 年前期木曜 4 限 3 年前期木曜 5 限隔週 1,3	堀田 明博	意匠 22
TF044001	環境デザイン演習 II	3.0	3 年後期金曜 4,5 限	清水 忠男	意匠 22
TF045001	生理人類学	2.0	3 年後期火曜 2 限	勝浦 哲夫	意匠 23
TF046001	材料計画演習 III	3.0	3 年後期木曜 4,5 限	青木 弘行	意匠 23
TF047001	デザインシステム計画 II	2.0	3 年後期火曜 5 限	杉山 和雄	意匠 24
TF048001	デザインシステム計画演習 II	3.0	3 年後期金曜 3,4,5 限	渡邊 誠	意匠 24
TF049001	知覚心理学演習 II	3.0	3 年後期火曜 3,4 限	日比野 治雄	意匠 25
TF053001	学外実習	2.0	3,4 年通期集中	各教官	意匠 25
TF055001	メディアデザイン演習 I	3.0	2 年後期水曜 3 限 2 年後期水曜 4 限隔週 1,3	宮崎 紀郎	意匠 26
TF055003	メディアデザイン演習 I	3.0	前期	宮崎 紀郎	意匠 26
TF056001	C G 演習	3.0	2 年後期水曜 4 限隔週 2,4 2 年後期水曜 5 限	玉垣 庸一	意匠 27

## 2001年度工学部デザイン工学科Aコース(デザイン)シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF057001	デジタルデザイン論	2.0	3年前期金曜5限	(大平 智弘)	意匠 27
TF058001	メディアデザイン演習 II	3.0	3年前期火曜1,2限	宮崎 紀郎	意匠 28
TF059001	メディアデザイン演習 III	3.0	3年後期木曜3,4,5限	(児山 啓一)	意匠 28
TF061001	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	3年後期月曜1,2限	各教官	意匠 29
TF062001	卒業研究(意匠・3年)	6.0	3年後期集中	各教官	意匠 29
TF064001	建築と人間の歴史	2.0	前期月曜5限	玉井 哲雄	意匠 30
TF065001	建築史 II	2.0	後期月曜5限	モリス・マーティン	意匠 30
TF066001	建築デザイン基礎	2.0	後期水曜3限	(上垣内 伸一)他	意匠 30
TF069001	建築設計総合指導 I	2.0	前期火曜4限	全教官	意匠 31
TF070001	建築エスキース I	2.0	前期土曜2限	(加茂 紀和子)	意匠 31
TF071001	室内環境計画 I	2.0	前期月曜1限	宮田 紀元	意匠 31
TF072001	室内環境計画演習	2.0	前期月曜2限	宮田 紀元	意匠 32
TF073001	建築設計学	2.0	前期水曜3限	栗生 明	意匠 32
TF074001	材料力学	2.0	前期水曜1限	大山 宏	意匠 33
TF075001	材料力学演習	2.0	前期水曜2限	大山 宏	意匠 34
TF077001	建築設計総合指導 II	2.0	後期金曜4限	全教官	意匠 34
TF078001	建築エスキース II	2.0	後期土曜2限	(丸谷 博男)	意匠 35
TF079001	都市・地域計画 I	2.0	後期月曜5限	北原 理雄	意匠 35
TF081001	建築生産	2.0	後期水曜4限	安藤 正雄	意匠 35
TF083001	構造力学 II	2.0	後期火曜3限	村上 雅也	意匠 36
TF084001	構造力学演習 II	2.0	後期火曜4限	(中埜 良昭)	意匠 36
TF086001	構造設計 I	2.0	後期水曜5限	(桜田 智之)	意匠 37
TF087001	構造設計 III	2.0	後期月曜1限	森田 耕次	意匠 37
TF088001	建築設計総合指導 III	2.0	前期木曜4限	全教官	意匠 37
TF089001	構造設計演習 III	2.0	後期月曜2限	森田 耕次	意匠 38
TF090001	建築エスキース III	2.0	前期土曜2限	(渡辺 泰男)	意匠 38
TF091001	都市・地域計画 II	2.0	前期火曜1限	福川 裕一	意匠 38
TF092001	建築デザイン計画 I	2.0	前期月曜3限	服部 岑生	意匠 39
TF093001	建築デザイン計画演習 I	2.0	前期月曜4限	服部 岑生	意匠 39
TF095001	建築史 III	2.0	前期月曜2限	モリス・マーティン	意匠 39
TF097001	建築史野外演習	4.0	通期集中	モリス・マーティン	意匠 40
TF098001	建築設備計画 I	2.0	前期金曜4,5限隔週1,3	(石渡 博)	意匠 40
TF099001	室内環境計画 II	2.0	前期水曜3限	(山田 由紀子)	意匠 40
TF100001	建築生産演習	2.0	前期木曜2限	安藤 正雄	意匠 41
TF102001	材料実験	2.0	前期火曜3,4限	前田 孝一	意匠 41
TF103001	構造設計 II	2.0	前期金曜2限	野口 博	意匠 41
TF104001	構造設計演習 II	2.0	前期金曜3限	野口 博	意匠 42
TF106001	建築設計総合指導 IV	2.0	後期木曜4限	全教官	意匠 42
TF108001	建築エスキース IV	2.0	後期土曜2限	(飯沼 秀晴)	意匠 42
TF110001	都市・地域計画 III	2.0	後期火曜2限	福川 裕一	意匠 43
TF111001	建築法規・行政	2.0	後期水曜5限	(平沢 岩機)	意匠 43
TF112001	造園学	2.0	後期水曜4限	(油井 正昭)	意匠 44
TF113001	建築デザイン計画 II	2.0	後期木曜1限	中山 茂樹	意匠 44
TF114001	建築デザイン計画演習 II	2.0	後期木曜2限	中山 茂樹	意匠 44
TF116001	建築史 V	2.0	後期火曜5限	モリス・マーティン	意匠 45
TF117001	室内環境計画 III	2.0	後期水曜3限	(山田 由紀子)	意匠 45
TF118001	建築設備計画 II	2.0	後期金曜5限	(斎藤 満)	意匠 45
TF120001	基礎地盤工学	2.0	後期金曜2限	中井 正一	意匠 46
TF122001	構造実験	2.0	後期火曜3,4限	原田 幸博	意匠 46
TF123001	振動工学	2.0	前期木曜1限	村上 雅也	意匠 46

## 2001 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF126001	構造デザイン	4.0	前期木曜 5 限 前期金曜 5 限	(富島 誠司)	意匠 47
TF127001	卒業演習	2.0	前期集中	全教官	意匠 47
TF129101	建築の構造	2.0	前期月曜 4 限	全教官	意匠 47
TF129201	先端建築論 I	2.0	前期水曜 6 限	(中田 捷夫)	意匠 48
TF129301	構造力学 I A	2.0	後期月曜 2 限	高梨 晃一	意匠 48
TF129401	構造力学 I B	2.0	後期月曜 2 限	上杉 英樹	意匠 48
TF129501	構造力学演習 I A	2.0	後期月曜 3 限	原田 幸博	意匠 49
TF129601	構造力学演習 I B	2.0	後期月曜 3 限	大山 宏	意匠 49
TF130001	先端建築論 II	2.0	前期木曜 6 限	(横田 暉生)	意匠 49
TF131001	建築数学	2.0	後期火曜 1 限	前田 孝一	意匠 50

授業科目名 : 図学演習  
 科目英訳名 : Descriptive Geometry (Lec & Lab)  
 担当教官 : 永田 喬  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T039  
 開講時限等: 1 年前期火曜 2 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境システムA	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF1:デザインA デザインコース	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザインA 建築コース	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[講義目的] 空間を把握し、操作、表示する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な三次元空間表示のための、基礎的図法の理論の学習と演習を行う。授業は二部構成とし、第一部は平行投影図法、第二部は中心投影図法からなる。

[講義内容] 第1回 用具説明, クラス分け, イントロダクション第2回 投影法, 直線, 直線と平面の関係 / 写生および透視図法概論第3回 平面と平面の関係 / 2点透視図法第4回 切断 / 1点透視図法および1点透視図法に似た2点透視図法第5回 相関体 / 3点透視図法第6回 展開 / 円の透視図法第7回 軸測投影 / 同上第8回 試験 / 同上第9回 クラス入れ換え・写生および透視図法概論 / 投影法, 直線, 直線と平面の関係第10回 2点透視図法 / 平面と平面の関係第11回 1点透視図法および1点透視図法に似た2点透視図法 / 切断第12回 3点透視図法 / 相関体第13回 円の透視図法 / 展開第15回 同上 / 試験

授業科目名 : デザイン工学セミナー(意匠系)  
 科目英訳名 : Seminar: Introduction to Design  
 担当教官 : 各教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T03A  
 開講時限等: 2 年前期月曜 2 限  
 講義室 : 各研究室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門基礎必修 (E10)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザインA 建築コース	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[講義目的] デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方など、受講生と教官が一体となって思考する。具体的には、デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教育研究内容についてセミナー形式の授業によって触れることにより、デザイン科学・デザイン計画の領域の基本的理解を求めるとともに、学生と教官のコミュニケーションの基盤の形成を促す。

[講義内容] 10名程度のグループを編成し、それぞれのグループ単位で1教育研究分野につき3週間、合計4つの教育研究分野でのセミナー形式の授業を受講する。各教育研究分野でのセミナーを終了した後、全体での討論を行う。各教育研究分野での3週間のセミナーは、それぞれの分野の教育研究の特色に応じて計画されるが、概ね以下の内容である。各教育研究分野でのセミナー第1週:教育研究分野の教育および研究の内容紹介第2週:教育研究分野の特色に応じた演習第3週:演習の内容を踏まえた討論

[備考] 第一回目の授業にて受講の意志を確認し、受講生を決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教官と受講生で相談の上、その都度決定する。受け入れ人数:185人以下(1年次に限る) 課題、レポートおよびクラスにおける討論により成績評価を行う。

授業科目名 : デザイン工学セミナー (意匠系)  
 科目英訳名 : Seminar: Introduction to Design  
 担当教官 : 各教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T03B

開講時限等: 1 年後期木曜 2 限  
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門基礎必修 (E10)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザインA 建築コース	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[講義目的] デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方など、受講生と教官が一体となって思考する。具体的には、デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教育研究内容についてセミナー形式の授業によって触れることにより、デザイン科学・デザイン計画の領域の基本的理解を求めるとともに、学生と教官のコミュニケーションの基盤の形成を促す。

[講義内容] 10 名程度のグループを編成し、それぞれのグループ単位で 1 教育研究分野につき 3 週間、合計 4 つの教育研究分野でのセミナー形式の授業を受講する。各教育研究分野でのセミナーを終了した後、全体での討論を行う。各教育研究分野での 3 週間のセミナーは、それぞれの分野の教育研究の特色に応じて計画されるが、概ね以下の内容である。各教育研究分野でのセミナー第 1 週: 教育研究分野の教育および研究の内容紹介第 2 週: 教育研究分野の特色に応じた演習第 3 週: 演習の内容を踏まえた討論

[備考] 第一回目の授業にて受講の意志を確認し、受講生を決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教官と受講生で相談の上、その都度決定する。受け入れ人数: 185 人以下 (1 年次に限る) 課題、レポートおよびクラスにおける討論により成績評価を行う。

授業科目名 : デザインと人間  
 科目英訳名 : Design and humanity (Lec)  
 担当教官 : 各教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T03C

〔学部開放科目〕

開講時限等: 1 年前期木曜 5 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境システムA	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF1:デザインA デザインコース	専門必修 (F10)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF4:デザインA 建築コース	個別科目 (C14)			
TJ1:都市環境システムB 環境プランニング	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境システムB メディアプランニング	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] デザインに係わるさまざまな領域の理念、歴史、方法論などについて基本的な理解を求めるとともに、これらの知識の統合により、人間社会におけるデザインの役割、進むべき方向性などを考察する。

[講義内容] デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教官が、それぞれの専門の立場から講義を行う。第 1 週: オリエンテーション第 2 週: デザインの歴史と展望第 3 週: デザイン工学科意匠系の歴史第 4 週: 課題「デザインとは何か(1)」第 5 週: 人間の機能から見たデザイン第 6 週: 材料計画から見たデザイン第 7 週: システムとしてのデザイン企画・計画の方法第 8 週: 工業製品デザインの事例第 9 週: デザインと生活文化第 10 週: ビジュアルコミュニケーションの領域とその役割第 11 週: 環境とデザインの関わり第 12 週: デザインの基礎と造形第 13 週: 色彩と形の心理学第 14 週: 課題「デザインとは何か(2)」第 15 週: 総合討論

授業科目名 : 基礎造形演習  
 科目英訳名 : Basic Design Training  
 担当教官 : 瀧 徹  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T03D, T03E

開講時限等: 1 年前期火曜 3,4 限

講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,  
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門必修 (F10)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] デザイン作業の基本的能力となる造形力を身につけることを目的とする。自然物、人工物を対象にその形態や色彩、テクスチャ、動き等を正確に観察、描写し、また、与えられた条件の中で立体を構成する訓練を行なう。

[講義内容] [講義内容] 第 1 回 演習の目的の説明・草花をコンテ、鉛筆淡彩で描く 第 2 回 継続、完成  
 第 3 回 材質の異なる複数の対象をコンテ、鉛筆淡彩で描く 第 4 回 継続、完成 第 5 回 動く  
 生物をコンテ、鉛筆淡彩で描く 第 6 回 継続、完成 第 7 回 継続、完成 第 8 回 立体造形のための  
 テーマ、説明、道具についての説明 第 9 回 材木に直接デッサンし、構想を描きながら荒彫りを始める 第  
 10 回 全体の形を認識 第 11 回 素材の特性、大きさ・量と形や位置との関係を検討 第 12 回 イメージの  
 方向性、表現方法、形の整理 第 13 回 全体と細部のバランスを考慮して彫る 第 14 回 完成 第 15 回  
 講評、採点

授業科目名 : デザインの歴史  
 科目英訳名 : History of Design (Lec)  
 担当教官 : 宮崎 清  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T043

開講時限等: 1 年後期火曜 4 限

講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1996 年
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)				T4:情報A	専門選択 (F30)
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		

[講義目的] 近代におけるデザイン文化の歴史的展開過程を要因 - 理念 - 実践の関連のなかでとらえ、人類の生活文化形成にデザインが果たしてきた役割とその意味を、ヨーロッパにおけるデザイン運動をはじめ、日本の伝統美術、伝統工芸、アジアの伝統的生活文化、アジアの伝統美術などの事例に基づいて紹介し検討する。これらの史的把握を通して、文化としてのデザインの今日的課題を考察する。

[講義内容] 第 1 回: デザインの歴史認識の方法、デザインにおける近代の意味。<BR> 第 2 回: 機械化時代の到来と世界文明の集積。<BR> 第 3 回: 生活の芸術化。<BR> 第 4 回: 芸術と工芸の統合。<BR> 第 5 回: アジア・日本の伝統美術への関心。<BR> 第 6 回: アジア・日本の伝統工芸への関心。<BR> 第 7 回: 工業化と規格化。<BR> 第 8 回: デザインの体系化。<BR> 第 9 回: 機械化時代の新装飾。<BR> 第 10 回: インダストリアルデザイナーの誕生。<BR> 第 11 回: 日本における伝統美術の発展過程。<BR> 第 12 回: 日本における伝統工芸の発展過程。<BR> 第 13 回: 日本の近代におけるデザインの発展過程。<BR> 第 14 回: 文化としてのデザインの今日的課題と展望。<BR> 第 15 回: テストまたはレポート。<BR> なお、各回の授業においては、多数の映像を用い、作品の紹介ならびに鑑賞を行う。

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介する

授業科目名 : 基礎人間工学  
 科目英訳名 : Basic Ergonomics (Lec)  
 担当教官 : 勝浦 哲夫  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T044

開講時限等: 1 年後期火曜 5 限  
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 真に健康で快適な生活環境をデザインするためには人間の生物科学的特性の理解が必要である。人間-環境-機械系における人間の生理的・心理的機能と構造を概説し、使いやすい機器・快適な環境をデザインするための人間工学の基礎を学習する。

[講義内容] 第1回 序論:人間工学とはなにか 第2回 人間工学とデザイン 第3回 人間の感覚特性 第4回 視覚と光(1) 第5回 視覚と光(2) 第6回 聴覚と音 第7回 快適性評価 第8回 人体の構造と機能(1) 筋骨格系 第9回 人体の構造と機能(2) 呼吸循環系 第10回 人体の構造と機能(3) 神経系 第11回 人体の構造と機能(4) 感覚系 第12回 人間の成長 第13回 人間の形態 第14回 人間の行動 第15回 期末テスト

[教科書・参考書] 「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店

[備考] 受け入れ人数: 100名以内 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 材料計画論 (学部開放科目)  
 科目英訳名 : Materials Planning (Lec)  
 担当教官 : 青木 弘行  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T045

開講時限等: 1 年後期水曜 3 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境システムA			専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] デザインを展開するに当たって必要となる材料関連問題を、材料計画の観点から概説する。また、事例紹介を通して、現代における材料開発や材料関連技術の動向について解説する。

[講義内容] 材料計画 (Materials Planning) の考え方、デザインと材料特性 - 経済的特性・環境的特性・感性感覚的特性・製造的特性・物理的特性・化学的特性等 - の関係について解説すると同時に、デザインにおいて必要となる各種材料について事例をまじえて概説する。また、材料開発、材料関連技術の動向と方向性についても言及する。

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[備考] 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 製品デザイン論 I  
 科目英訳名 : Some Aspects of Product Design I (Lec)  
 担当教官 : 永田 喬  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T049  
 開講時限等: 1年後期月曜 3 限  
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 製品デザインの基礎的な知識を、具体的な事例を通してその全体像を把握し、製品デザイン技術に資することを目的とする。あわせて幾つかの課題を課して学習を補強する。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション(授業の進め方と課題の発表) 現代工業デザイン誕生の背景第2回 現代工業デザインの発展の系譜第3回 同上(その2)第4回 工業デザインの職能分化の変遷と確立第5回 社会的機能としての職能第6回 製品の3側面 第7回 ひと-機械の系第8回 同上(その2)第9回 機器の構造と造形第10回 同上(その2)第11回 デザイン技術と造形第12回 ハードウェアとソフトウェア分析と可能性の展開と限界第13回 形と素材と生産第14回 同上(その2)第15回 デザインの思考と方法

授業科目名 : 視覚デザイン基礎演習  
 科目英訳名 : Visual Communications Design Fundamentals (Lec & Lab)  
 担当教官 : 宮崎 紀郎  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T04A, T04B  
 開講時限等: 1年後期金曜 4,5 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室,  
 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 視覚デザインの基礎的なことからの概説と基本要素についての演習を行なう。スミによる作図、作画および彩色による作図、作画の基礎を学び、それぞれの課題制作を行なう。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション:この授業の目的、内容。 第2回 課題1「H」のかたちを描く。第3回 課題1の講評。課題2「箱をつくろう」の説明 課題3「レタリング」の説明 30文字以上の「完成された書体」を彩色して書く。B3ケント紙使用。課題4「似顔絵」の説明。先生1名、もう一人(誰でも)A4サイズに一名ずつ描いてB3台紙に貼り込む。人物名を台紙または画面内にレタリングする。課題5「模写」の説明。ポスターなど印刷された広告物を本物そっくりに描く。A4サイズ以上で文字が入っているものを選ぶこと。台紙に、本物と模写を並べて貼る。B3以上はそのまま提出。 第4回 課題2「箱」の試作。即日設計。 第5回 課題2「箱」の中間講評。色の塗り方デモンストレーション。 第6回 課題2「箱」本制作。即日設計。 第7回 課題2の講評。配色に関する講義。 第8回 課題3「レタリング」の説明。レタリングの講義。レタリングの練習1。 第9回 レイアウトの極意を伝授。レタリングの練習2。模写の候補を持参して情報開示、交換。 第10回 課題3「レタリング」の即日設計。 第11回 課題3 講評。課題4「似顔絵」のスケッチ。 第12回 課題4「似顔絵」の即日設計。 第13回 課題4「似顔絵」の講評。 第14回 課題5「模写」の講評。 第15回 試験

授業科目名 : デザイン文化計画  
 科目英訳名 : Culture of Design (Lec)  
 担当教官 : 宮崎 清  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T04C

〔学部開放科目〕

開講時限等: 2 年前期火曜 3 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境システム A				専門選択 (F30)
TF1:デザイン A デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築コース	個別科目 (C14)			専門選択 (F30)
TG:電子機械 A			専門選択 (F30)	
TH:情報画像 A	専門選択 (F30)			

[講義目的] デザインが人類の生活文化形成の上で果たしてきた役割と意味について、日本の伝統美術および伝統的生活文化、アジアの伝統美術および伝統的生活文化などの具体的事例を紹介しながら考察する。特に、生活文化の形成に不可欠な生活用具について、その意味・記号性・風土性・伝播・変遷などを検討し、今日の生活文化全般にわたるデザイン計画について考察する。

[講義内容] 第 1 回:日本の伝統美術と工芸。<BR> 第 2 回:アジアの伝統美術と工芸。<BR> 第 3 回:伝統的生活文化と生活用具~自然の素材・造形から「プリコラージュ」。<BR> 第 4 回:伝統的生活文化と生活用具~四季・自然をモチーフに。<BR> 第 5 回:生活の構造と生活用具~空間の意味性「結界の美」。<BR> 第 6 回:生活の構造と生活用具~時間の意味性「ハレとケ」。<BR> 第 7 回:伝統の持つ新しいメッセージ~「用の美」生活と生活用具。<BR> 第 8 回:伝統の持つ新しいメッセージ~作法と伝え。<BR> 第 9 回:伝統の持つ新しいメッセージ~使いまわしの精神「モノの輪廻転生」。<BR> 第 10 回:伝統の持つ新しいメッセージ~使い続けることで美しくなる。<BR> 第 11 回:伝統の持つ新しいメッセージ~「一物全体活用」の精神。<BR> 第 12 回:伝統の持つ新しいメッセージ~「自然との共生」の意味。<BR> 第 13 回:生活用具の創作を通じた地域開発計画~生き甲斐とものづくり。<BR> 第 14 回:「地産地消」からはじまるものづくり~グローカリゼーション。<BR> 第 15 回:テストまたはレポート。<BR> なお、各回の授業においては、多数の映像を用い、作品の紹介並ならびに鑑賞を行う。

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介する。

授業科目名 : メディアデザイン論  
 科目英訳名 : Theory of Communications Media Design (Lec)  
 担当教官 : 宮崎 紀郎  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T04D

開講時限等: 2 年前期水曜 2 限  
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース		専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	
TH4:情報画像A(画像 画像システム工学			専門選択 (F30)	その他 (Z99)

[講義目的] ビジュアルコミュニケーションに関わる媒体(メディア)が、社会の中でどのような役割を果たしているのか、マス・コミュニケーション媒体を中心にして、その機能と媒体を取り巻く状況について、具体的な事例を上げながら考察する。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション。この講義の概略。わたくしの考えるデザイン - - その中での「視覚媒体論」の位置づけ。 第2回 いきなり最終回。「視覚媒体」の果たす社会的役割 - - ライフ掲載の写真をたどって。 第3回 マス・コミュニケーション媒体とその特性。マス・コミュニケーション4大媒体、その他媒体。ライフサイクルと媒体接触時間。 第4回 マス・コミュニケーション機能。環境と疑似環境。疑似環境の環境化。媒体の中継機能と環境創出機能。 第5回 マス・コミュニケーション媒体としての新聞。わたくしたちの新聞デザインの研究から・その1。 第6回 報道の客観性と主観。わたくしたちの新聞デザインの研究から・その2。 第7回 媒体の話。媒体の歴史。写真の歴史。 第8回 「視覚媒体」のエレメント。写真とイラストレーション。写真表現の特性。写真の見方。 第9回 記号の話。記号と意味。ものの記号化、こと記号化。 第10回 二つの写真集を見る。南良和「ある山村・農民」小関与四郎「九十九里浜」。 第11回 この授業で課したレポートの紹介と講評。レポート：新聞記事を見て、雑誌の表紙の批評、媒体と新聞の今後について。 第12回 コミュニケーションの話。人間コミュニケーション。コミュニケーションモデル。 第13回 広告の話。広告制作、代理店、広告費。P.R.、プロパガンダ、パブリシティ。広告と媒体との関係。 第14回 C Iの話。C Iでデザインは変わったか。デザインはひとつ。 第15回 もう一度最終回。コミュニケーションの観点から、ふたたびデザインと「視覚媒体」について考える。

授業科目名 : C G理論  
 科目英訳名 : Theory of Computer Graphics (Lec)  
 担当教官 : 玉垣 庸一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T04E

開講時限等: 2 年前期金曜 1 限  
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース			専門選択 (F30)	
TH:情報画像A	専門選択 (F30)			
TH4:情報画像A(画像 画像システム工学			専門選択 (F30)	

[講義目的] コンピュータによる画像生成の数理的な仕組みを色彩情報、形状情報の両側面からとらえて論じる。

[講義内容] 第1回 C G画像生成システムの概略 第2回 C G画像生成システムの仕組み ハードウェアの基礎 第3回 C G画像生成システムの仕組み アセンブリ言語によるプログラミング 第4回 サブルーチンと push, pop 第5回 2次元アフィン変換 第6回 3次元アフィン変換 図形変換と座標変換 第7回 シーングラフと push, pop 第8回 ワールド座標とローカル座標 -図形変換の構文論と意味論- 第9回 シーングラフからフローチャートへ 第10回 透視変換とフォトリアリズム 第11回 Zバッファアルゴリズム 第12回 レイトレーシングアルゴリズム 第13回 C Gと色1 カラーモデルと表色系 第14回 C Gと色2 C Gの陰影計算と色 第15回 試験

授業科目名 : 環境デザイン論  
 科目英訳名 : Theory of Environmental Design (Lec)  
 担当教官 : 清水 忠男  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T04F  
 開講時限等: 2年前期木曜 2 限  
 講義室 : 工 2号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 人間と空間との関わり方を、心理や行動やそれらの背後にある文化などを通して理解し、望ましい環境形成に果たす私たち一人一人の役割とデザインの可能性について、ともに考える。

[講義内容] 1 ガイダンス 居心地のよい環境とは何か 2 第1課題 3 第1課題のプレゼンテーション及びディスカッション 第2課題の説明、用具貸与 4 生き延びるための空間把握 5 障害のない環境づくり 6 個人的空間領域 7 メッセージを伝達する空間 8 第2課題プレゼンテーション及びディスカッション 9 空間の演出 第3課題の説明 10 第3課題:調査/作業 11 第3課題プレゼンテーション及びディスカッション (1) 12 第3課題プレゼンテーション及びディスカッション (2) 13 「空間」から「環境」へ 14 共生意識の共有 環境デザインの行方 15 まとめ ディスカッション 小論文

[履修条件] 各課題及び小論文は必ず提出のこと。毎回提出するゲーム・レポート等によって確認される出欠席状況は成績評価に反映する。

[教科書・参考書] 「行動・文化とデザイン」(清水忠男著 SD 選書#215 / 鹿島出版会) / 「ふれあい空間のデザイン」(清水忠男著 SD 選書#233 / 鹿島出版会)

授業科目名 : 環境デザイン表示論演習  
 科目英訳名 : Environmental Design Presentation Methods (Lec & Lab)  
 担当教官 : 清水 忠男, (小椋 勇記夫), 佐藤 公信  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T050, T051  
 開講時限等: 2年前期火曜 4 限隔週 2,4 / 2年前期火曜 5 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1996年
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)				TB:情報B 専門選択 (F30)	
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)			専門選択 (F30)		

[講義目的] 環境デザインを行うために必要な図法や技法を講義・演習を通して理解し、的確な表現手法を習得する。講義では、各種図法の理論的側面を、演習では、基礎的な図面表現から、透視図法の着彩技法までを体系的に学ぶ。

[講義内容] 第1回 ガイダンス 第2回 空間製図の基礎 第3回 製図の基礎 小規模店舗のデザイン 第4回 内部空間の透視図法による表示 1 第5回 内部空間の透視図法による表示 2 第6回 内部空間の透視図法による表示 3 第7回 外部空間の透視図法による表示 第8回 ガイダンス 第9回 インテリア透視図の着彩 第10回 インテリア透視図の着彩 第11回 講評 第12回 エクステリア透視図の着彩 第13回 エキジビション<デザイン及び下書き> 第14回 エキジビション<着彩> 第15回 講評

授業科目名 : 色彩科学 [学部開放科目]  
 科目英訳名 : Color Science  
 担当教官 : 日比野 治雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T052  
 開講時限等: 2 年前期金曜 4 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境システム A				専門選択 (F30)
TF1:デザイン A デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TG:電子機械 A			専門選択 (F30)	
TH:情報画像 A	専門選択 (F30)			

[講義目的] 「色彩」について深く理解するためには、色彩を物理的側面と心理的側面の 2 つの側面から考える方法を会得しなければならない。色は知覚現象であるので、色についての正確な知識を得るためには、その心理的側面に対する認識が不可欠である。しかし一般的に、色彩の心理的側面については、それほど深く考慮していない人々が多い。そこで、本授業では、特に色彩の心理的側面に焦点を当てて講義する。

[講義内容] 以下のようなトピックについて詳しく解説する：色とは何か（色彩研究の歴史およびニュートンの色彩論など）；色覚の理論（ヤング・ヘルムホルツの三色説とヘリングの反対色説）、色の体系化（マンセルの色体系など）、色の測定（測色学の基礎、混色と等色、RGB 表色系、CIE 表色系など）、色知覚（色の知覚現象の例、色差の弁別、色の見え、色順応など）、色覚異常（色の生理的基礎過程など）、色の応用（色の応用的側面など）、色研究の現状および全体のまとめ・なお、上記の講義内容は、都合により変更されることもある。

[履修条件] 特に条件はないが、毎回出席することが前提である（毎回出欠をとる）。

[教科書・参考書] 色彩心理学入門（大山正著） 中公新書 1169

[備考] 受け入れ人数：100 人程度 成績評価法：出席、課題および期末試験

授業科目名 : 環境デザイン製図演習  
 科目英訳名 : Environmental Design Drawing Methods (Lab)  
 担当教官 : (八木 健一)  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T053, T054  
 開講時限等: 2 年後期金曜 1,2 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,  
 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 環境デザインを行う上で必要とされる各種図面の描き方を理解・修得する。展示計画、住宅設計、景観計画などに関わる具体的な事例を基に演習を行う。

[講義内容] 第 1 回 ガイダンス / 景観計画のための製図の基礎 第 2 回 " 第 3 回  
 " 第 4 回 " 第 5 回 " 第 6 回 展示計画のための製図の基礎 第 7 回  
 " 第 8 回 " 第 9 回 " 第 10 回 " 第 11 回 住宅・小店舗設計のた  
 めの製図の基礎第 12 回 " 第 13 回 " 第 14 回 " 第 15 回 "

授業科目名 : 造形力学論  
 科目英訳名 : Dynamics of Objects (Lec)  
 担当教官 : 久保 光徳  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T056

開講時限等: 2年前期金曜 5 限  
 講義室 : 工 2号棟 201 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 自然物、人工物を含めた様々なモノの形状や形態が示す力学的意味の解釈方法と、その解釈をベースとした力学的な造形過程を可能とする力学的概念の紹介を本講義の目的とし、材料力学、構造力学、弾性力学、振動工学そして流体力学に内在する造形的概念について説明する。

[講義内容] 第1回 形と力に対する直感的導入 第2回 モノの形と境界条件との関係 第3回 モノの基本的な力学特性 第4回 曲げの理論1(梁理論) 第5回 曲げの理論2(梁理論) 第6回 自然物の形と力1(木、竹、骨など) 第7回 自然物の形と力2(木、竹、骨など) 第8回 繊維強化型複合材料に見られる異方性 第9回 繊維強化型複合材料に見られる異方性 第10回 ハニカム構造材料(ハニカムサンドイッチパネル) 第11回 モノが示す現実的な変形挙動1(非線形挙動:弾性座屈) 第12回 モノが示す現実的な変形挙動2(紙コップの座屈) 第13回 モノが示す振動特性1(固有振動:共振現象) 第14回 モノが示す振動特性2(振動と波動) 第15回 有限要素法概説(CAD・CAE)

授業科目名 : 基礎デザイン論Ⅰ  
 科目英訳名 : Theory of Design Fundamentals I (Lec)  
 担当教官 : 野口 尚孝  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T057

開講時限等: 2年前期金曜 3 限  
 講義室 : 工 2号棟 201 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)			

[講義目的] デザインの基礎理論として「ものをつくる行為」の論理構造についてを論じ、目的と手段、直観と論理、表現方法、評価と意思決定といったデザイン行為の主体が関わる基本的問題、およびデザインにおける形態表現について実例を通じてわかりやすく述べる。

[講義内容] 前半では、ものをつくることの意味と、それによる人間の思考過程の形成についてを歴史的、論理的に捉え返し、その中で、普遍的なデザイン行為と職能としてのデザインとの区別を明確にし、普遍的なデザイン行為における創造的行為や論理的推論などについてを述べる。後半では、自然物の形態の持つ論理と人工物の持つ形態の例を挙げ、それらを通じて人間の表現におけるコンピュータの位置づけを行う。

授業科目名 : 基礎製品デザイン演習  
 科目英訳名 : Product Design Fundamentals (Lec & Lab)  
 担当教官 : 渡邊 誠  
 単位数 : 4.0 単位  
 履修登録コード: T058, T059

開講時限等: 2年前期水曜 4,5 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室,  
 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 製品デザインにおいて必要な基礎能力を, 具体的な課題を通して習得する。主に消費財を対象に, それらの抱えるデザインの諸問題の抽出と, その解決法の具体的提案を行うことで, 製品デザインにおける基礎能力を習得する。

[講義内容] 第1回 ガイダンス第2回 デザインコンセプトの作成方法1 第3回 デザインコンセプトの作成方法2 第4回 デザインターゲットの作成方法1 第5回 デザインターゲットの作成方法2 第6回 アイデアスケッチの展開方法1 第7回 アイデアスケッチの展開方法2 第8回 アイデアスケッチの展開方法3 第9回 レンダリングの方法1 第10回 レンダリングの方法2 第11回 レンダリングの方法3 第12回 プレゼンテーションテクニック1 第13回 プレゼンテーションテクニック2 第14回 プレゼンテーションテクニック3 第15回 最終プレゼンテーション

授業科目名 : 製品デザイン論 II  
 科目英訳名 : Some Aspects of Product Design II (Lec)  
 担当教官 : 釜池 光夫  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T05A

開講時限等: 2年前期水曜 3 限  
 講義室 : 工 2号棟 201 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース		専門選択 (F30)		

[講義目的] より実践的なデザイン能力の向上を目的とし, 具体的な製品デザインの事例を基に理解し, 製品デザイン特に乗用車デザインの諸技術要件プロセスについて学習する。あわせて幾つかの課題を課して学習を補強する。

[講義内容] 第1回 製品デザイン総論 (1) デザインの定義 生活の道具・製品第2回 製品デザイン総論 (2) 産業とデザイン第3回 製品のかたち (1) 機能とかたち(乗用車デザインの事例)第4回 製品のかたち (2) ソフトとかたち(乗用車デザインの事例)第5回 製品の要件 (1) デザイン要件の分類第6回 デザインの歴史 (1) 乗用車の創生期第7回 デザインの歴史 (2) 乗用車の現代と将来第8回 プロセス総論 (1) デザイン開発のプロセス第9回 コンセプト (1) デザインコンセプト第10回 パッケージング (1) パッケージングコンセプト第11回 学ぶ・知る (2) 調査・演習(プレスト, KJ)第12回 創る・遊ぶ (3) 発想アイデア演習、総合・シュミレーション演習第13回 研究の方法論 (1) デザイン研究の方法論第14回 課題 (2) 複雑変動系への挑戦第15回 レポート・テスト 「産業デザインの課題」

授業科目名 : 視覚デザイン演習  
 科目英訳名 : Visual Communications Design (Lec & Lab)  
 担当教官 : 玉垣 庸一  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T05B, T05C

開講時限等: 2 年前期木曜 4,5 限  
 講義室 : Ⅰ 2-アトリエ (2-601), Ⅰ 2-第一製図室,  
 Ⅰ 2-アトリエ (2-601), Ⅰ 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 情報の視覚化を良質に行うための基礎感度の養成。平面の作業に必要な技術を養う。

[講義内容] 第1回 <課題1> 色面による構成、作品の説明と作業の進め方について 第2回 構築物を形成するためのスケッチ1 水張 第3回 構築物を形成するためのスケッチ2 ベタ塗り 第4回 色と形の視覚的効果を考えながら構築物に彩色トレース、転写 第5回 <課題2> 色の調子・素材・質感構成 第6回 文字、数字デッサン、デッサンから面を抽出する 第7回 絵の具の作る現象を採取 第8回 線で囲まれた面に注目し、採取した現象を嵌め込む 第9回 素材の質感で表現する 質感を作り出す 質感のみによる平面を構成する 第10回 合評 第11回 <課題3> 色の秩序(カラーシステム)に着目した平面構成 課題の説明 第12回 秩序の認識 第13回 秩序の表現(秩序立った色の並びを作る練習) 第14回 秩序の表現(原寸スケッチ) 第15回 課題完成、講評。

[備考] 成績評価法: 課題提出

授業科目名 : デザイン文化計画演習 I  
 科目英訳名 : Culture of Design Seminar I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 宮崎 清  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T05D, T05E

開講時限等: 2 年後期木曜 1,2 限  
 講義室 : Ⅰ 2号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 文化としてのデザインの実践に関する今日的課題について、水辺空間のデザイン、形態の幾何学と力学、生活空間のデザインの視点より、各講師が論考する。講義では、デザインの実践例を中心に紹介し、これに付随したディスカッションならびに演習を行う。

[講義内容] 第1回: デザイン計画における文化の意味(1)。 第2回: 水辺空間のデザイン(1) 環境保全とデザイン。 第3回: 水辺空間のデザイン(2) 自然環境アセスメント(植生)。 第4回: 水辺空間のデザイン(3) 自然環境アセスメント(景観)。 第5回: 水辺空間のデザイン(4) 水辺環境の保全とデザイン。 第6回: 構造体のデザイン(1) 自然形態のデザイン。 第7回: 構造体のデザイン(2) 人為形態のデザイン。 第8回: 構造体のデザイン(3) 空間形状の幾何学。 第9回: 構造体のデザイン(4) 空間形状の力学。 第10回: 生活空間のデザイン(1) 環境と人間の生活空間(国内)。 第11回: 生活空間のデザイン(2) 環境と人間の生活空間(国外)。 第12回: 生活空間のデザイン(3) 生活空間と民族性。 第13回: 生活空間のデザイン(4) 国際化のなかのデザイン。 第14回: デザイン計画における文化の意味(2)。 第15回: テストまたはレポート。

[教科書・参考書] 講義の開始前に掲示にて指定する。

授業科目名 : 材料計画演習 I  
 科目英訳名 : Materials Planning and Seminar I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 久保 光徳  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T05F, T060

開講時限等: 2年後期水曜 1,2 限  
 講義室 : 工 2号棟 201 教室, 工 2号棟 202 教室, 工 2号棟 201 教室, 工 2号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 物理・化学的知識のみで理解される傾向にある[材料]を、[もの]を構成する造形材料、そして[ひと]の感性に影響を与える感性情報材料としてとらえなおし、使用レベルでの[材料]の本質的な特性を、「紙製造形物の制作」、および「材料に対するイメージの構造解析」等を通して体験させる。

[講義内容] 第1回 ガイダンス、グループ分け第2回 教育用CAD・CAMの基礎概念と操作方法の説明第3回 3Dスキャナーによる形状の読み取りとCAD操作第4回 有限要素法による構造解析(CAE操作)第5回 光造形機によるモデル制作第6回 電子レポートの作成第7回 電子レポートの作成第8回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作第9回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作第10回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作第11回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作第12回 電子顕微鏡による材料表面の観察第13回 天然有機材料を対象とした物理・化学実験第14回 プレゼンテーション準備第15回 プレゼンテーション

[備考] 準備品等は後日連絡

授業科目名 : 材料開発計画  
 科目英訳名 : Design for Materials Development (Lec)  
 担当教官 : (菊地 紀洋)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T061

開講時限等: 2年後期月曜 4 限  
 講義室 : 工 2号棟 201 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース				専門選択 (F30)

[講義目的] 新材料開発のための思考過程、方法、その実際等にわたる計画・立案に関する内容を講義する。特に、プラスチック材料の基礎物性から、改良、そして応用領域まで言及し、材料開発に関する最新の情報を提供する。また、加工技術について概説し、プラスチック製品の形態とその意味を説明する。

[講義内容] 第1回 材料開発とは何か、第2回 プラスチック材料の基礎物性(1)、第3回 プラスチック材料の基礎物性(2)、第4回 プラスチック材料の改良(1)、第5回 プラスチック材料の改良(2)、第6回 プラスチック材料の応用領域、第7回 各種複合材料開発の現状と応用製品例、第8回 加工技術開発(1)、第9回 加工技術開発(2)、第10回 加工技術開発(3)、第11回 加工技術開発(4)第12回 加工技術開発(5)、第13回 プラスチック材料と環境問題、第14回 材料開発と工業デザインの接点、第15回 まとめ

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[備考] 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 基礎デザイン論 II  
 科目英訳名 : Theory of Design Fundamentals II (Lec)  
 担当教官 : 堀田 明博  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T062

開講時限等: 2年後期月曜1限  
 講義室 : 工2号棟 202教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 生活環境デザインの基礎的知識としてデザインの基本的概念と、人間特性と生活環境を構成する製品や空間の特性との関係及びこれらに基づいたデザインプロセスについて理解する。更に、デザインにおける形態等の基本的構成原理に関する知識、また、デザインが社会的な活動という視点から、社会的問題とデザインとの関係を理解する。

[講義内容] 1. 本講義の概要、目標 2. デザインの概念、定義 3. デザインの対象とそのシステム 4. デザインにおける要求の種類とそのレベル 5. 具体的な要求表現とデザインの関係 6. 思考のメカニズムモデル 7. デザインのプロセス 8. デザインサーベイの目的と方法 9. デザインの発想方法 10. デザインに関係する人間要因 11. デザインと美術・工芸の関係 12. デザインと機能の関係 14. デザインと視覚リテラシ- 15. デザインと標準、安全性

授業科目名 : デザインシステム計画 I  
 科目英訳名 : Design Systems Planning I (Lec)  
 担当教官 : 杉山 和雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T063

開講時限等: 2年後期火曜3限  
 講義室 : 工2号棟 201教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] デザイン企画の考え方やそのための情報分析, 具体的な計画に当たっての技術・要件のシステム論的扱い方などを、製品デザイン解析を応用しながら実例によって考察する。

[講義内容] 第1回 ガイダンス第2回 デザインにおけるシステムとは第3回 企業におけるデザイン部門第4回 デザインにおけるマネージメント第5回 デザインプロセス1 第6回 デザインプロセス2 第7回 デザインとCAD 第8回 商品ラインナップとデザイン1 第9回 商品ラインナップとデザイン2 第10回 モデルチェンジとデザイン第11回 公共物とデザイン1 第12回 公共物とデザイン2 第13回 ユーザーインターフェイスデザイン1 第14回 ユーザーインターフェイスデザイン2 第15回 試験

授業科目名 : 製品人間工学  
 科目英訳名 : Products Ergonomics (Lec)  
 担当教官 : 勝浦 哲夫  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T066

開講時限等: 2 年後期月曜 5 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 使いやすい機器をデザインするためには人間の身体構造・機能の理解が必要である。特に身体運動の基礎となる神経筋機能、循環機能を中心にキネシオロジーに関する講義を行う。また、機器やインタフェースにおけるエルゴデザインの事例を紹介し、解説するとともに、デザイン評価としての人間工学の実験計画の基礎についても解説する。

[講義内容] 第 1 回 序論：製品人間工学とはなにか第 2 回 手の働きと製品デザイン第 3 回 製品人間工学の実例 (1) 第 4 回 製品人間工学の実例 (2) 第 5 回 筋の構造と筋収縮 (1) 第 6 回 筋の構造と筋収縮 (2) 第 7 回 筋活動の測定と評価第 8 回 製品人間工学の実例 (3) 第 9 回 製品人間工学の実例 (4) 第 10 回 インタフェースデザインと人間工学 (1) 第 11 回 インタフェースデザインと人間工学 (2) 第 12 回 人間工学における実験計画法 (1) 第 13 回 人間工学における実験計画法 (2) 第 14 回 人間工学における実験計画法 (3) 第 15 回 期末テスト

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鏑・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。

[備考] 受け入れ人数：90 名以内 成績評価法：テスト他

授業科目名 : デザイン文化計画演習 II  
 科目英訳名 : Culture of Design Seminar II (Lec & Lab)  
 担当教官 : 宮崎 清  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T067, T068

開講時限等: 3 年前期水曜 1,2 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース				専門選択 (F30)

[講義目的] 地域社会におけるデザイン文化諸相を近隣地域におけるフィールド・サーベイをとおして把握・解析する。得られた知見を社会に向けたデザイン提案としてまとめる。また、夏期休業中には 1 週間程度、学外におけるフィールド・サーベイを実施する。

[講義内容] 第 1 回：地域社会における自然との共生のデザイン。第 2 回：地域社会における資源の利活用のデザイン。第 3 回：地域社会におけるアノニマス・デザイン。第 4 回：地域社会における環境・景観形成のデザイン。第 5 回：調査地の地理的・産業的・文化的概要の把握。第 6 回：テーマ設定と調査計画の検討。第 7 回：調査項目の検討。第 8～11 回：調査地におけるフィールド・サーベイの実施。第 12 回：調査地におけるフィールド・サーベイのまとめ。第 13 回：フィールド・サーベイに基づくデザイン提案の検討。第 14 回：調査地における報告会の開催。第 15 回：フィールド・サーベイを通じたデザイン文化計画の展望。

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介する。

授業科目名 : 人間工学演習 I  
 科目英訳名 : Experiments on Ergonomics I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 勝浦 哲夫  
 単位数 : 5.0 単位  
 履修登録コード: T069, T06A, T06B

開講時限等: 3 年前期月曜 3,4,5 限  
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 人間工学的デザインに関する講義・実験を行い、測定手法、解析手法等を実践的に学習する。演習内容としては、使いやすさや生体の負担を少なくすることを目的とした人間工学的演習を行う。

[講義内容] 4つにグループ分けし、それぞれ4つのテーマについて実験、解析、パネル作成および研究発表を行う。第1回 実験概要の説明 第2回 製品人間工学に関する研究-1 第3回 製品人間工学に関する研究-2 第4回 製品人間工学に関する研究-3 第5回 インターフェースに関する研究-1 第6回 インターフェースに関する研究-2 第7回 インターフェースに関する研究-3 第8回 環境人間工学に関する研究-1 第9回 環境人間工学に関する研究-2 第10回 環境人間工学に関する研究-3 第11回 認知科学に関する研究-1 第12回 認知科学に関する研究-2 第13回 認知科学に関する研究-3 第14回 研究発表会 第15回 研究発表会

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鏑・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。

[備考] 成績評価法：出席、態度、プレゼンテーション

授業科目名 : 材料計画演習 II  
 科目英訳名 : Materials Planning and Seminar II (Lec & Lab)  
 担当教官 : 青木 弘行  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T06C, T06D

開講時限等: 3 年前期月曜 1,2 限  
 講義室 : 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] デザイン材料に要求される性能と使われ方との関係を理論および演習の両側面から検討し、材料計画に対する総合的解析能力を養う。具体的には、[材料と感性との関わり]、[デザイン解としての材料と構造・形態との最適な関係]等について、その考え方、理論、そして取り組み方を演習によって体験する。

[講義内容] 以下に示す課題を行い、ポートフォリオとして視覚化する。(1) 製品の使われ方の調査から使い方を設計し、それをデザインへと展開する方法を検討する。(2) 製品が有する材料特性を解析し、そこから得られた知見を活用して新製品の提案を行う。(3) 人工素材で造られた観葉植物、建築材料、展示用食品サンプル等の価値分析を行い、イミテーション材料の意味と今後の可能性について検討する。(4) 製品の分解過程を体験し、材料活用や解体容易化設計のあり方を検討する。

[備考] 準備品等は後日連絡

授業科目名 : デザインシステム計画演習 I  
 科目英訳名 : Design Systems Planning I (Lab)  
 担当教官 : 杉山 和雄  
 単位数 : 3.0 単位  
 開講時限等: 3 年前期金曜 3 限 / 3 年前期金曜 4 限隔週 1,3  
 履修登録コード: T070, T071  
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 生活システム、社会システムとそれぞれの領域で必要とされるシステム製品との関係を考察し、新しいコンセプトを創造し、具体的なデザインテーマを設定して、解析と造形と設計とを一貫した演習を行う。

[講義内容] 第1回 ガイダンス第2回 コンセプト開発とデザイン第3回 技術の発展予測とデザイン第4回 コンセプト開発テーマの選定第5回 ライフカタログとしての編集作法第6回 生活文化研究第7回 テーマ別(個人別)討議第8回 システムのデザインの歴史第9回 極小の探求第10回 デザイン図面の作成第11回 設計図面、調査資料などの提出第12回 モックアップの作成第13回 モックアップの提出第14回 実現性の検討第15回 プレゼンテーション

授業科目名 : 製品デザイン演習 II  
 科目英訳名 : Product Design II (Lab)  
 担当教官 : 永田 喬  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T072, T073  
 開講時限等: 3 年前期木曜 2,3 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 1 : 第1課題 : 具体的な機器の設計を通じて、製品デザインのプロセスおよび造形力を学習する。2 : 第2課題 : 専門的な講師により、企業における実践的かつ今日的な製品のデザインを行う。3 : 課題の提出は授業終了時とし、プレゼンテーション形式で行う。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション(課題の発表とグループ分け) 第1課題「具体的な機器デザイン」  
 第2回 アイデアの展開・資料収集第3回 アイデアの検討・資料解析第4回 アイデアの収束第5回 中間プレゼンテーション第6回 アイデアの再検討 第7回 作品の表示(製品コンセプト、スケッチをレポート形式で仮提出する。)第8回 第2課題はA:プロダクト、B:照明器具、C:インタフェースの内1つを選択 課題の概略説明と質疑作品の表示第9回 ハードウェアとソフトウェア分析と可能性の展開と限界第10回 アイデアの展開第11回 アイデアの展開、深化と構造化第12回 アイデアの検討、評価と修正第13回 アイデアの収束第14回 作品の表示10回第15回 プレゼンテーション

授業科目名 : 環境デザイン演習 I  
 科目英訳名 : Environmental Design I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 清水 忠男  
 単位数 : 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期金曜 4 限隔週 2,4 / 3 年前期金曜 5 限

履修登録コード: T074, T075

講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース		専門選択 (F30)		

[講義目的] 環境を形成する製品や空間と人間のかかわり方を調査・考察し、室内空間とそこで用いられる家具・什器のデザインの手がかりとする。また、具体的な演習課題を通して、生活環境デザインの基本的な手法やプロセスを習得する。

[講義内容] 第 1 回 講義: 居心地のよい生活環境とは何か 第 2 回 講義: 室内空間と家具・什器とのかかわり 第 3 回 課題 1 の発表と講評 第 4 回 講義: 床坐と椅子坐のはざま 第 5 回 講義: 家具デザインにおける素材と技術 第 6 回 講義: 家具デザインにおける素材と技術 第 7 回 課題 2 の発表と講評 第 8 回 講義: 住宅設計の現場から 第 9 回 課題 3 の作業/相談 第 10 回 課題 3 の作業/相談 第 11 回 課題 3 の発表と講評 第 12 回 課題 4 の作業/相談 第 13 回 課題 4 の作業/相談 第 14 回 課題 4 の発表と講評 第 15 回 全課題のまとめの最終発表と講評

[履修条件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、課題の一部でも提出されなかった場合は、原則として単位は与えられない。成績評価は、各課題の成績と、各回に提出されたコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

授業科目名 : 知覚心理学演習 I  
 科目英訳名 : Visual Perception I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 日比野 治雄  
 単位数 : 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期火曜 3 限 / 3 年前期火曜 4 限隔週 1,3

履修登録コード: T076, T077

講義室 : 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 人間が、外界に存在する情報の多くを視覚を通して受容していることを考えれば、視覚は人間の行動の基礎を成す重要なシステムであることは明らかである。したがって、この視覚について深く考察することは、デザインの認識および創造の基礎である人間の視覚についての理解を深めることにつながる。本科目では、このような視点から人間の知覚にアプローチする。

[講義内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける: 視覚の基礎 (視覚とはどのようなものかについて、多角的に考える); 人間の眼 (視覚の基盤をなす「眼」についての基礎知識の修得); 「見る」とは? (視覚系の生理学的側面); 形の知覚 (「かたち」の知覚、図と地など); 色の知覚 (色彩を知覚する能力); 奥行き知覚と立体視 (3次元空間の知覚) 学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションを通じて発表する場も設ける。・上記の講義計画は、都合により変更されることもある。

[履修条件] 色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である (遅刻・欠席厳禁!!)。

[教科書・参考書] 美と造形の心理学 (北大路書房)

[備考] 受け入れ人数: 4 0 人程度 成績評価方法: 課題および発表

授業科目名 : 造形デザイン演習・平面  
 科目英訳名 : Tableau (Lec & Lab)  
 担当教官 : 堀田 明博  
 単位数 : 3.0 単位

開講時限等: 3 年前期木曜 4 限 / 3 年前期木曜 5 限隔週  
 1,3

履修登録コード: T078, T079

講義室 : 工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房, 工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房

## 科目区分表

学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)	
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 平面空間における造形デザインの計画力、構成力及び表現力を、具象的なモチーフ、抽象的モチーフを通して習得することを目的とする。また、表現にはコンピュータ、版画手法を用いるが、その制作手法の違いによる表現結果の特性を理解することも目的である。

[講義内容] 1. 演習の目的及び課題の概要、制作方法、道具等の説明 2. 第1課題(人物の表現)の素描、下絵制作  
 3. 同上 4. エッチングによる制作 5. 同上 6. 第2課題(対の意図の表現)の素描、下絵制作 7. 同上  
 8. 平版画技法による制作 9. 同上 10. 第2課題のMacによる下絵バリエーションの制作 11. 同上 12. 自由に加筆制作 13. 同上 14. 版画専門用紙への刷り 15. 講評、採点

[履修条件] 2年次で基礎でデザイン論 を履修していることが望ましい。

授業科目名 : 環境デザイン演習 II  
 科目英訳名 : Environmental Design II (Lec & Lab)  
 担当教官 : 清水 忠男  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T07E, T07F

開講時限等: 3 年後期金曜 4,5 限

講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 公共空間における人々の行動や意識の調査をもとに、公共施設や商業施設、それらの周辺環境のあり方を考察する。また、具体的な演習課題をチームによって推進することを通して、公共環境デザインの基本的な手法やプロセスを習得する。

[講義内容] 第1回 講義:公共空間に人は何を求めるか第2回 講義:公共空間デザインの概要第3回 現地予備調査第4回 予備調査の報告と講評第5回 基本コンセプトの作成第6回 基本コンセプトの発表と講評第7回 現地本調査第8回 現地本調査をふまえた基本デザインの作成第9回 基本デザインの発表と講評第10回 講義:公共空間デザインの現場から第11回 提案デザインの作成第12回 提案デザインの間接発表と講評第13回 提案デザインの作成第14回 提案デザインの作成第15回 提案デザインの最終発表と講評

[履修条件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が10回に満たない場合、また、チーム作業への貢献度が極めて低い場合は、原則として単位は与えられない。成績評価は、チーム全体の成果に対する評価とチーム作業への貢献度、各回に提出された個人のコメントの内容、出席状況を総合して行う。

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

授業科目名 : 生理人類学  
 科目英訳名 : Physiological Anthropology (Lec)  
 担当教官 : 勝浦 哲夫  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T080

開講時限等: 3 年後期火曜 2 限  
 講義室 : 工 2 号棟 101 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] デザインにおいて人間の機能とその特性を把握しておくことは重要である。人間工学領域における基礎的かつ最新の研究方法とその応用例や問題点を取り上げ、人間の進化や環境への適応をも踏まえたデザインの在り方について講義する。

[講義内容] 第 1 回 人類の進化・技術文明社会と生理人類学 第 2 回 人間の中樞神経系の構造と機能 (1) 第 3 回 人間の中樞神経系の構造と機能 (2) 第 4 回 人間の hoch 神経活動からみた快適性 (1) 第 5 回 人間の hoch 神経活動からみた快適性 (2) 第 6 回 人間特性としての疲労 第 7 回 疲労の評価手法 第 8 回 生理人類学とデザイン 第 9 回 人工環境と自然環境 第 10 回 温熱環境と人間 (1) 第 11 回 温熱環境と人間 (2) 第 12 回 温熱環境と人間 (3) 第 13 回 光環境と人間 (1) 第 14 回 光環境と人間 (2) 第 15 回 期末テスト

[教科書・参考書] 「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店、「最新生理人類学」佐藤方彦編、朝倉書店。

[備考] 成績評価法: テスト他

授業科目名 : 材料計画演習 III  
 科目英訳名 : Materials Planning and Seminar III (Lec & Lab)  
 担当教官 : 青木 弘行  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T081, T082

開講時限等: 3 年後期木曜 4,5 限  
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] デザイン材料に関連した諸問題をグループ作業を通して考察、検討する。得られた成果はビジュアルな媒体にまとめて発表・討論会を行い、最終成果物を報告書として制作する。特に、グループ作業を通しての意見交換、およびそれらの整理・統合、そしてプレゼンテーションへのアプローチの体験を重視する。

[講義内容] 第 1 回: 主旨説明と前年度までの成果概説、第 2 回: デザイン材料に関連した諸問題の抽出、第 3 回: 提起された問題に対する解決策の視点と論点に関する講義、第 4 回: 問題解決策の検討、第 5 回: 検討内容の構造的に整理とメインテーマ、サブテーマの階層化、第 6 回: 問題解決の視点・論点を再検討、第 7 回: 問題解決策の構造的明確化、第 8 ~ 9 回: サブテーマごとの検討作業、第 10 回: 中間発表、第 11 回: 問題解決策の検討、第 12 回: 発表・討論会準備、第 13 回: 発表・討論会、第 14 回: 報告書の構想検討、第 15 回: 報告書作成

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

授業科目名 : デザインシステム計画 II  
 科目英訳名 : Design Systems Planning II (Lec)  
 担当教官 : 杉山 和雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T083

開講時限等: 3年後期火曜 5 限  
 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 製品デザインの企画・デザインプロセスにおいて必要な情報の収集とその分析方法について多角的な講義を行う。デザインにおけるデータの種類と質の理解、さらにはその解析方法について習得するとともに、今後のデザインシステムに必要なシステム化の方法についての講義を行う。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション第2回 デザイン解析の利用法第3回 デザインにおけるデータ第4回 データの構築法第5回 構造化の方法1第6回 構造化の方法2第7回 構造化の方法3第8回 構造化の方法4第9回 構造化の方法5第10回 構造化の方法6第11回 評価の方法1第12回 評価の方法2第13回 システム化の方法1第14回 システム化の方法2第15回 試験

授業科目名 : デザインシステム計画演習 II  
 科目英訳名 : Design Systems Planning II (Lab)  
 担当教官 : 渡邊 誠  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T084, T085, T086

開講時限等: 3年後期金曜 3,4,5 限  
 講義室 : 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室,  
 工 2-アトリエ(2-601), 工 2-第一製図室,  
 工 2号棟 101 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 生活関連機器や輸送機器等から具体的テーマを設定し、製品デザインの一連のプロセスを具体的な作業を通して体得する。デザインコンセプトの作成、デザインの解析と再構成、さまざまな環境を含めた計画等から造形及びプレゼンテーションに至るまでの一貫した演習を行う。

[講義内容] 第1回 ガイダンス第2回 テーマの選定・現状および問題点の把握第3回 ブレインストーミングによる問題点の整理第4回 デザインコンセプトの作成第5回 デザイン展開1第6回 デザイン展開2第7回 デザイン展開3第8回 アイデアの絞り込み第9回 中間プレゼンテーション第10回 レンダリング完成第11回 モデル作成1第12回 モデル作成2第13回 モデル作成3第14回 プレゼンテーション準備第15回 プレゼンテーション

授業科目名 : 知覚心理学演習 II  
 科目英訳名 : Visual Perception II (Lec & Lab)  
 担当教官 : 日比野 治雄  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T087, T088

開講時限等: 3 年後期火曜 3,4 限  
 講義室 : 工 2 号棟 101 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 知覚心理学演習 I で得得した人間の視知覚についての基本的知識を踏まえた上で、視知覚研究の基礎を身につけることを目的とする。実際に、様々な視知覚の現象を体験することを通して、視知覚研究を身近なものとして捉え直すとともに、卒業研究の方向付けまでを目標としたい。主として、色彩に関する問題を扱う。

[講義内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：視知覚研究とは（視知覚研究とはどのようなものなのか）；心理物理学的測定の基礎（心理物理学的測定法の実際）；形の知覚（形の知覚の応用）；色の知覚（色の知覚に関する諸問題）；カラーコーディネートに関連する問題（検定試験に関連する問題について学ぶ） 学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションを通じて発表する場合も設ける。 ・上記の講義計画は、都合により変更されることもある。

[履修条件] 知覚心理学演習 I および色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である（遅刻・欠席厳禁!!）。

[教科書・参考書] 詳細については第 1 回の講義の際に伝える。

[備考] 受け入れ人数：4 0 人程度 成績評価法：課題および発表

授業科目名 : 学外実習  
 科目英訳名 : Extracurricular Activity  
 担当教官 : 各教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T08B

開講時限等: 3,4 年通期集中  
 講義室 : 未定(工学部)

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 本実習の目的は、大学での講義および実習をとおして身につけたデザイン技術に関する能力を、実社会において具体的にどのように応用するか、また、大学では学べないデザイン実務等に関する体験を身につけることを目的とする。

[講義内容] 本実習は授業等の休業期間中にを利用して、学外の企業等の組織において実務を体験する。期間、実習内容等は学外の組織と本学科と調整の上で決定されるため、定常的に本実習が行われるわけでは無い。希望者は事前に学年担当教官に申し出て、その指導・指示に従うこと。

[備考] 3・4 年次に履修

授業科目名 : メディアデザイン演習 I  
 科目英訳名 : Communications Media Design I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 宮崎 紀郎  
 単位数 : 3.0 単位  
 開講時限等: 2 年後期水曜 3 限 / 2 年後期水曜 4 限隔週  
 1,3  
 履修登録コード: T08C, T08D  
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] ビジュアルコミュニケーションデザインに関する基礎的な課題製作を通じ、映像メディアを含む情報とその表現形態のかかわりについて学ぶ。

[講義内容] 第1回 <課題3> カレンダーの企画制作 各自カレンダーの用途、形式などのコンセプト建てをすることから、さまざまなレベルの情報と表現について実感する。 第2回 いろいろなタイプのカレンダーを見る。 課題制作: アイデアスケッチ 第3回 カレンダーの企画制作プロセス。 課題制作: 原寸ラフスケッチ 第4回 カレンダーの傾向。 課題制作: 色彩つき原寸スケッチ 第5回 作品発表(プレゼンテーション) 講評。 第6回 <課題2> インフォメーショングラフィックス 課題の説明 第7回 テーマの確定。スケッチ。 第8回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。 第9回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。 第10回 課題完成、講評。 第11回 <課題3> エディトリアルデザイン「先生インタビュー」編集者、コピーライター、フォトグラファーなど、一人何役かをやってもらいます。先生の姿を的確にかつ興味深く紹介してください。 第12回 テーマの確定。スケッチ。 第13回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。 第14回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。 第15回 課題完成、講評。

[備考] 成績評価法: 課題提出

授業科目名 : メディアデザイン演習 I  
 科目英訳名 : Communications Media Design I (Lec & Lab)  
 担当教官 : 宮崎 紀郎  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード:  
 開講時限等: 前期  
 講義室 :

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] ビジュアルコミュニケーションデザインに関する基礎的な課題製作を通じ、映像メディアを含む情報とその表現形態のかかわりについて学ぶ。

[講義内容] 第1回 <課題3> カレンダーの企画制作 各自カレンダーの用途、形式などのコンセプト建てをすることから、さまざまなレベルの情報と表現について実感する。 第2回 いろいろなタイプのカレンダーを見る。 課題制作: アイデアスケッチ 第3回 カレンダーの企画制作プロセス。 課題制作: 原寸ラフスケッチ 第4回 カレンダーの傾向。 課題制作: 色彩つき原寸スケッチ 第5回 作品発表(プレゼンテーション) 講評。 第6回 <課題2> インフォメーショングラフィックス 課題の説明 第7回 テーマの確定。スケッチ。 第8回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。 第9回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。 第10回 課題完成、講評。 第11回 <課題3> エディトリアルデザイン「先生インタビュー」編集者、コピーライター、フォトグラファーなど、一人何役かをやってもらいます。先生の姿を的確にかつ興味深く紹介してください。 第12回 テーマの確定。スケッチ。 第13回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。 第14回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。 第15回 課題完成、講評。

[備考] 成績評価法: 課題提出

授業科目名 : CG演習  
 科目英訳名 : Computer Graphics (Lec & Lab)  
 担当教官 : 玉垣 庸一  
 単位数 : 3.0単位

開講時限等: 2年後期水曜 4限隔週 2,4 / 2年後期水曜 5限

履修登録コード: T08E, T08F 講義室 : 工1-401(デザイン実習室)

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] コンピュータによる画像生成に関連した基礎的な課題製作を通じ、数理的手順による造形方法を習得する。

[講義内容] 第1回 CG理論で学んだ内容との関係について説明 第2回 課題「アニメーションの制作」の説明  
 第3回 グループ分け 実例(静止画)によるプログラミング言語の説明 第4回 形状記述の説明  
 第5回 形状データ作成 色の記述方法RGB、CMY、HSV、HKWの説明 第6回 形状データの作成 階層型シーン記述(シーングラフ)の説明 第7回 形状データの作成 実例(データ組み込み型の動画)によるプログラミング言語の説明 第8回 形状データの作成 シーンファイルの説明 個人課題とグループ課題の説明 第9回 形状データ、シーンファイルの作成 実例(シーンファイル入力型の動画)によるプログラミング言語の説明 第10回 形状データ、シーンファイルの作成と動作確認作業 シーンファイル入力部分のプログラミング説明 第11回 形状データ、シーンファイルの作成と動作確認作業 動作部分のプログラミングの説明 第12回 個人課題の提出、グループ課題の動作確認作業 第13回 個人課題の講評 第14回 グループ課題の最終仕上げ 第15回 グループ課題の講評

[履修条件] CG理論を履修済みであること

授業科目名 : デジタルデザイン論  
 科目英訳名 : Theory of Digital Design (Lec)  
 担当教官 : (大平 智弘)  
 単位数 : 2.0単位

開講時限等: 3年前期金曜 5限

履修登録コード: T090 講義室 : 工2号棟 103教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 制作手順の客観的な記述の上に成り立つデジタルデザインが、定規・コンパスなどによる手作業とは本質的に異なるものであることを理解し、今後のデザインプロセスにその数理的な性格を積極的に活用していくことを目指す。

[講義内容] 第1回 オリエンテーション 授業の進め方 第2回 デジタルデザインとは 第3回 デジタルデザインの現状1 第4回 デジタルデザインの現状2 第5回 造形のプロセス 第6回 数理造形 1 形・モデル・構造、そして造形ルールの発見 第7回 数理造形 2 形状記述と生成手続きの記述 第8回 2次元CGと3次元CG 第9回 デジタルイメージの認知、処理、生成 第10回 工業デザインにおけるデジタルイメージの展開 第11回 ビジュアルコミュニケーションデザインにおけるデジタルイメージの展開 第12回 デジタルデザインによる生産プロセス1 第13回 「もの」のデザインから「こと」のデザインへ 第14回 ポストCADとしてのコンピュータデザインクス 第15回 試験

授業科目名 : メディアデザイン演習 II  
 科目英訳名 : Communications Media Design II (Lec & Lab)  
 担当教官 : 宮崎 紀郎  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T091, T092

開講時限等: 3 年前期火曜 1,2 限  
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2 号棟 103 教室, 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2 号棟 103 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] ビジュアルコミュニケーションデザインにおける各種媒体(映像メディア、紙メディアを含む)について、それぞれのコミュニケーションの考え方から実際の制作に至るプロセスを学び、課題制作を行なう。

[講義内容] 第1回 <課題1> 広告コミュニケーション 個人課題テーマ:サムネール制作 グループ課題テーマ:雑誌広告制作 TV広告・新聞広告・雑誌広告・交通広告・チラシ広告・屋外広告などの媒体特性と効果的な表現について事例を紹介しながら講義。 第2回 個人課題演習(1)と講評 第3回 個人課題演習(2)と講評 第4回 グループ課題演習 第5回 グループ課題講評 第6回 <課題2> ビジュアルキャンペーン キャンペーンのテーマは、社会的な問題(といって必ずしも大問題でなくてよい)とし、商品キャンペーン避ける。例えば、「新聞を読むことのすすめ」、「南棟における空き缶回収案」など、自分の関心が大きくこれは主張したいと思うことを選ぶ。 第7回 問題の状況の調査キャンペーンコンセプトづくり 第8回 媒体の決定問題を認識させる(訴求対象者に)ための構成表現コンセプトづくり 第9回 表現要素(コピー、イラストレーション、マーク、ロゴタイプなど)の制作、原寸色彩スケッチ 第10回 本制作 第11回 <課題3> WEBサイトの制作・インターネット公開を前提としたWEBサイトの構築する。・<課題1><課題2>で制作した広告、キャンペーンなどをWEB上で展開する。・HTMLの基本文法、インターネットのもつメディア特性に対する理解を深める。インターネットについて(講義) 第12回 アイデアの展開 トップページのカンプの制作 第13回 ページ構成のアイデア展開 カンプの中間講評 第14回 ページ構成を含めたプレゼンテーション 第15回 講評

[備考] 成績評価法:課題提出

授業科目名 : メディアデザイン演習 III  
 科目英訳名 : Communications Media Design III (Lec & Lab)  
 担当教官 : (児山 啓一)  
 単位数 : 3.0 単位  
 履修登録コード: T093, T094, T095

開講時限等: 3 年後期木曜 3,4,5 限  
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門選択必修 (F20)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース				専門選択 (F30)

[講義目的] 視覚デザインに関係するさまざまな分野で活躍している専門家による、それぞれの分野の特性、ならびに現状と展望の概説を行なう。

[講義内容] 第1回 公共サインとは サインの基本要素、情報の種類、表現要素(サインエレメント)、公共のサインの目的とは。 第2回 街の公共サイン 公共建築、公園、市街におけるサイン計画の手法について。 第3回 空港の公共サイン 日本の空港と世界の空港の現状、多言語とピクトグラム 色彩の役割などについて。 第4回 駅の公共サイン 駅と車両の連携、JR・民鉄・地下鉄の相違、自動化(省力化)は誰のため? 第5回 フィールドスタディー。JR千葉駅と新東京国際空港を見学して、各々の特性と共通性、視認度等について実体験する。 第6回 パッケージデザインの領域。グラフィック・デザイン、インダストリアル・デザイン。演習:課題出題、スケッチ。 第7回 パッケージに求められる機能の変遷。販売促進、保護、保管、生産、社会性、環境適性。演習:課題スケッチ。 第8回 人間工学とパッケージ・デザイン。道具としてのデザイン。演習:課題ロゴタイプのスケッチ。 第9回 商品計画とパッケージ・デザイン。商品計画、宣伝、販売、物流。演習:課題シンボルマーク等スケッチ。 第10回 パッケージ・デザイン制作のシステム。スケッチ、ロゴタイプ、シンボルマーク、パターン、レイアウト、プレゼンテーション。演習:課題まとめのスケッチ。 第11回 放送局におけるCG利用と制作 CG概論と放送局のCG 第12回 ニュース・選挙・スポーツ・天気は文字情報でいっぱい デザイナーのふるさとの世界 第13回 オールデジタル・カメラレス映像について 第14回 ヴァーチャルセットとリアルタイム3DCG CGキャスター・CGタレントの誕生はいつ? 第15回 まとめ

[備考] 成績評価法:課題提出

授業科目名 : デザイン工学総合プロジェクト  
 科目英訳名 : Collaborative Research & Design Projects  
 担当教官 : 各教官  
 単位数 : 6.0 単位  
 履修登録コード: T09B, T09C

開講時限等: 3 年後期月曜 1,2 限  
 講義室 : 工 1-401 (デザイン実習室)

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門必修 (F10)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

**[講義目的]** 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教官チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第 7 および第 8 セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

**[講義内容]** 本演習はその時点での社会的問題に関係する課題を、デザインの問題として設定する。1~5: 課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6~10: 課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11~15: コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第 6、7、8 セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながより質の高い解決案に進める。

**[履修条件]** 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。

授業科目名 : 卒業研究 (意匠・3 年)  
 科目英訳名 : Graduation Study  
 担当教官 : 各教官  
 単位数 : 6.0 単位  
 履修登録コード: T0A3

開講時限等: 3 年後期集中  
 講義室 : 各研究室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザインA デザインコース	専門必修 (F10)			
TF2:デザインA インダストリアルデザ	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザインA メディアデザイン	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

**[講義目的]** 学部の各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

**[講義内容]** 3 年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等をとうして随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

**[履修条件]** 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

授業科目名 : 建築と人間の歴史 [学部開放科目]  
 科目英訳名 : Architecture and Human History  
 担当教官 : 玉井 哲雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0AB  
 開講時限等: 前期月曜 5 限  
 講義室 : 工 19号棟 115 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TE:都市環境システムA		専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TG:電子機械A	専門選択 (F30)			
TH:情報画像A	専門選択 (F30)			
TJ1:都市環境システムB 環境プランニング	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TJ2:都市環境システムB メディアプランニング	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 日本建築史における重要な問題を取り上げる。古代～近世における寺院・神社および住宅・都市を素材とし、主にその文化的な側面を、東アジアおよびヨーロッパとの比較という観点も導入し、背景となる社会的な問題を視野に入れて論じることを目的とする。説明のためのプリントやスライドを必要に応じて用いる。建築以外の文化系学生の聴講も歓迎する。

[講義内容]

[教科書・参考書] 教科書「日本建築史図集」(日本建築学会編・彰国社)。参考書「建築の歴史」(中央公論社)。

授業科目名 : 建築史 II  
 科目英訳名 : History of Architecture II  
 担当教官 : モリス・マーティン  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0AC  
 開講時限等: 後期月曜 5 限  
 講義室 : 工 15号棟 110 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 西洋を中心とした建築の発展過程とそれにおける主要な問題点を様式史的な観点から論ずる講義である。様式概念を紹介し、世界各地における建築様式の成立を述べた後、特に西洋文明に見られる様々な建築様式の興隆と没落の流れを語る。また、各々の様式の特徴と相互関係について説明する。プリントやスライドを必要に応じて用いる。

[講義内容]

[教科書・参考書] 参考書「西洋建築様式史」(熊倉洋介他、美術出版社)

授業科目名 : 建築デザイン基礎  
 科目英訳名 : Basic Architectural Design  
 担当教官 : (上垣内 伸一), 柳澤 要  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0AD  
 開講時限等: 後期水曜 3 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A	専門必修 (F10)

[講義目的] 図学演習にひき続きドローイングの技法と理論についてレクチャーと基礎的なトレーニングを行い、近現代建築ケースとして図面表現を学習する。

[講義内容] 鉄筋コンクリート造、木造建築などの施工図が理解出来るよう事例をコピーさせる。最終課題として自由設計も出題している。

[教科書・参考書] 建築設計製図(実教出版)

授業科目名 : 建築設計総合指導 I  
 科目英訳名 : Architectural Design I  
 担当教官 : 全教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0AE  
 開講時限等: 前期火曜 4 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A	専門必修 (F10)

[講義目的] 初歩的な設計課題について建築的な発想を育て、構想し、まとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーを行う。

[講義内容]

[履修条件] 図学演習、建築デザイン基礎を履修していること。

授業科目名 : 建築エスキース I  
 科目英訳名 : Esquisse for Architectural Design I  
 担当教官 : (加茂 紀和子)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0AF  
 開講時限等: 前期土曜 2 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A	専門必修 (F10)

[講義目的] 初歩的な設計課題について建築的な発想を育て、構想し、まとめあげていく方法を学ぶためのデザイントレーニングを行う。

[講義内容]

[履修条件] 建築設計総合指導 I と同時に履修すること。

授業科目名 : 室内環境計画 I  
 科目英訳名 : Interior Design I  
 担当教官 : 宮田 紀元  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B0  
 開講時限等: 前期月曜 1 限  
 講義室 : 工 9号棟 106 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TE:都市環境システムA			専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		

[講義目的] 室内環境に係わる計画のいくつかの側面を対象に、理論的な知識の理解を深める。多くの場合、1つの課題に対し2時限を費やし、テーマに関する建築的な意味合い、基礎的な知識、計画方法などを解説する。

[講義内容]

[教科書・参考書] 特になし。演習のための資料、用紙などを配布する。

授業科目名 : 室内環境計画演習  
 科目英訳名 : Seminar on Interior Planning  
 担当教官 : 宮田 紀元  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B1

開講時限等: 前期月曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1995 年
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択 (F30)

[講義目的] 室内環境に係わる計画のいくつかの側面を対象に、模擬的な計画作業を体験して、理論的な知識の理解を深める。多くの場合、1つの課題に対し2時限を費やし、課題に関する建築的な意味合い、基礎的な知識、計画方法などを解説した後、演習を実施する。

## [講義内容]

[教科書・参考書] 特になし 演習のための資料、用紙などを配布する

授業科目名 : 建築設計学  
 科目英訳名 : Architectural Design Method  
 担当教官 : 栗生 明  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B2

開講時限等: 前期水曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 我々をとりまくソフト・ハードの環境全体をどうデザインするのか、さまざまなデザイン要素を抽出し、内外の事例を紹介しながら解説する。講義にはスライドを使用し、簡易な課題を出す。

## [講義内容]

授業科目名 : 材料力学  
 科目英訳名 : Strength of Materials  
 担当教官 : 大山 宏  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B3

開講時限等: 前期水曜 1 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1996年	1995年
TF:都市環境システムA			専門選択 (F30)		T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門必修 (F10)			

[講義目的] 構造力学Iでは、簡単構造物の反力、応力(軸力、曲げモーメント、剪断力)を力の釣り合いから求めた。引き続き、材料力学では、応力により生ずる変形を考慮し、構造部材の断面内の応力度分布、構造物の変形などの基礎を主題とする。これらを基礎にして、構造力学IIでは、より実用的な骨組構造物の解析手法が与えられる。

[講義内容] 第1回 材料力学の基礎概念基本仮定・伸び・縦歪・横歪・曲げ・垂直歪・剪断歪第2回 歪と応力軸力・曲げモーメント・剪断力・垂直応力・剪断応力・モールの応力円第3回 断面の特性係数(1)断面1次モーメント・重心・断面2次モーメント・平行軸定理・断面係数第4回 断面の特性係数(2)断面極2次モーメント・断面2次半径・断面相乗モーメント・断面主軸・モールの慣性円第5回 材料の力学的性質応力-歪図・弾性限・降伏点・引張強さ・弾性係数・ヤング係数・剪断弾性係数・ポアソン比第6回 各種の応力を受ける材(1)断面内の垂直応力分布・軸力・曲げモーメント・応力の組み合わせ第7回 各種の応力を受ける材(2)断面内の剪断応力分布・長方形断面・円形断面・薄肉断面・H形断面第8回 <中間試験> 受験条件:なし。(解答レポート提出。)(教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。)第9回 梁の変形(1)撓み曲線式・弾性曲線式・共役梁法・弾性荷重法・モールの定理第10回 梁の変形(2)ミオンチスの片持梁公式の誘導・応用第11回 梁の変形(3)不静定梁・一端固定+他端ローラー・両端固定・連続梁第12回 静定トラスの応力と変形クレモナ図・ウィロー変位図・モール回転変位図第13回 静定ラーメンの応力と変形ミオンチスの片持梁公式の応用第14回 曲線材アーチ梁・曲がり梁第15回 <試験> 受験条件:なし。(後日、解答レポート提出。)(教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。)<演習ノート提出> 試験終了後に回収。後日返却。第16回 <追試1> 受験条件:なし。(なお、この時点では成績評価未了。)第17回 <追試2> 受験条件:前回まで試験の完全解答レポートの事前提出。第18回 <追試3> 受験条件:前回まで試験の完全解答レポートの事前提出。

[履修条件] 無

[教科書・参考書] [教科書] 嶋本恒雄/相川三郎 編「建築学小事典 第4版」 理工学社 1994 ¥3000 + 本書では、基本的で実用的な解法・例題などを順を追って丁寧に説明している。講義・演習では、根拠・誘導を十分説明し、学生の納得の行くまで質疑応答したい。この講義・演習での利用範囲は、わずかに(p. 3-8)~(p. 3-39)である。[参考書] 高橋幸伯・町田進 共著「基礎|材料力学 改訂版」 培風館 1999 ¥2500 + 本書の初版は、10年間、教科書として用いた。せめて序文くらいは覗いてほしい。本書では、ところどころに建築実務と異なる表現がある。その点は注意して読んでほしい。

[備考] [演習ノート] 大学ノート(B5判) 演習の評価資料。試験後提出。後日返却。ルースリーフ式・スパイラル綴じ式のノートは望ましくない。[教材] プラスチック定規2本(長さ20cm程度のもの) 単独あるいは貼り合わせて「曲げを加えて梁の変形、軸を押し柱の座屈」を実感しよう。[電卓] 数式処理・グラフ関数電卓(TI92, HP49, Casio, Sharpなど) 数学の苦手意識を克服するために電卓を使い、数学を勉学・遊びの道具にしよう。

授業科目名 : 材料力学演習  
 科目英訳名 : Seminar on Strength of Materials  
 担当教官 : 大山 宏  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B4  
 開講時限等: 前期水曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1996年	1995年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 構造力学 I では、簡単構造物の反力、応力（軸力、曲げモーメント、剪断力）を力の釣り合いから求めた。引き続き、材料力学では、応力により生ずる変形を考慮し、構造部材の断面内の応力度分布、構造物の変形などの基礎を主題とする。これらを基礎にして、構造力学 II では、より実用的な骨組構造物の解析手法が与えられる。

[講義内容] 第 1 回 材料力学の基礎概念基本仮定・伸び・縦歪・横歪・曲げ・垂直歪・剪断歪第 2 回 歪と応力軸力・曲げモーメント・剪断力・垂直応力・剪断応力・モールの応力円第 3 回 断面の特性係数（1）断面 1 次モーメント・重心・断面 2 次モーメント・平行軸定理・断面係数第 4 回 断面の特性係数（2）断面極 2 次モーメント・断面 2 次半径・断面相乗モーメント・断面主軸・モールの慣性円第 5 回 材料の力学的性質応力-歪図・弾性限・降伏点・引張強さ・弾性係数・ヤング係数・剪断弾性係数・ポアソン比第 6 回 各種の応力を受ける材（1）断面内の垂直応力分布・軸力・曲げモーメント・応力の組み合わせ第 7 回 各種の応力を受ける材（2）断面内の剪断応力分布・長方形断面・円形断面・薄肉断面・H 形断面第 8 回 <中間試験> 受験条件：なし。（解答レポート提出。）（教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。）第 9 回 梁の変形（1）撓み曲線式・弾性曲線式・共役梁法・弾性荷重法・モールの定理第 10 回 梁の変形（2）ミオソチスの片持梁公式の誘導・応用第 11 回 梁の変形（3）不静定梁・一端固定+他端ローラー・両端固定・連続梁第 12 回 静定トラスの応力と変形クレモナ図・ウィロー変位図・モール回転変位図第 13 回 静定ラーメンの応力と変形ミオソチスの片持梁公式の応用第 14 回 曲線材アーチ梁・曲がり梁第 15 回 <試験> 受験条件：なし。（後日、解答レポート提出。）（教科書・参考書・ノート・電卓などの参照を許す。ただし共同利用厳禁。）

[履修条件] 無

[教科書・参考書] [教科書] 嶋本恒雄/相川三郎 編「建築学小事典 第4版」理工学社 1994 ¥3000 + 本書では、基本的で実用的な解法・例題などを順を追って丁寧に説明している。講義・演習では、根拠・誘導を十分説明し、学生の納得の行くまで質疑応答したい。この講義・演習での利用範囲は、わずかに (p. 3 - 8) ~ (p. 3 - 39) である。[参考書] 高橋幸伯・町田進 共著「基礎材料力学 改訂版」培風館 1999 ¥2500 + 本書の初版は、10年間、教科書として用いた。せめて序文くらいは覗いてみてほしい。本書では、ところどころに建築実務と異なる表現がある。その点は注意して読んでほしい。

[備考] [演習ノート] 大学ノート (B5判) 演習の評価資料。試験後提出。後日返却。ルースリーフ式・スパイラル綴じ式のノートは望ましくない。[教材] プラスチック定規 2 本 (長さ 20cm 程度のもの) 単独あるいは貼り合わせて「曲げを加えて梁の変形、軸を押し柱の座屈」を実感しよう。[電卓] 数式処理・グラフ関数電卓 (TI92, HP49, Casio, Sharp など) 数学の苦手意識を克服するために電卓を使い、数学を勉学・遊びの道具にしよう。

授業科目名 : 建築設計総合指導 II  
 科目英訳名 : Architectural Design II  
 担当教官 : 全教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B6  
 開講時限等: 後期金曜 4 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A	専門必修 (F10)

[講義目的] 建築設計総合指導 I に引き続き建築を構想、企画し、計画を定め建築として総合的にまとめあげていく方法を学ぶためのレクチャーを行う。

[講義内容]

[履修条件] 建築設計総合指導 I を履修していること

授業科目名 : 建築エスキース II  
 科目英訳名 : Esquisse for Architectural Design II  
 担当教官 : (丸谷 博男)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B7  
 開講時限等: 後期土曜 2 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A 専門必修 (F10)	

[講義目的] 建築設計総合指導 I に引き続き建築を構想、企画し、計画を定め建築として総合的にまとめあげていく方法を学ぶためのデザイントレーニングを行う。

[講義内容]

[履修条件] 建築設計総合指導 II と同時に履修すること

授業科目名 : 都市・地域計画 I  
 科目英訳名 : City & Regional Planning I  
 担当教官 : 北原 理雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B8  
 開講時限等: 後期月曜 5 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TE:都市環境システムA			専門選択 (F30)	
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TH1:情報画像A 情報工学コース				専門選択 (F30)

[講義目的] 人々の生活の場である都市環境を的確に読み解き、そのあるべき姿を構想する力を身につけてもらうことが、この講義の目的である。都市空間のさまざまな特性と社会との相関、それをなりたたせている仕組みなどを、具体的な事例にもとづいて考察する。

[講義内容] 1. 建築と都市空間(街並みをつくる建築, 都市の広場, 二つの都市空間, 見える秩序と見えない秩序)  
 2. 住まいと都市空間(日本の住まい, ヨーロッパの住まい, 街並みと住まい) 3. グリッド都市の空間(日本のグリッド都市, ヨーロッパのグリッド都市, 現代のグリッド都市) 4. 広場と街路(広場の伝統, 街路の文化, 人間のための都市空間) 5. 視覚空間と位相空間(地形原理と幾何学原理, 城下町の空間, 生きられる場所)

[履修条件] 都市環境デザイン(都市環境システム学科)との重複受講はできない。

[教科書・参考書] S. E. ラスムッセン: 都市と建築, 東京大学出版会(参考書). J. ゲール: 屋外空間の生活とデザイン, 鹿島出版会(参考書)

[備考] 成績評価はレポートと出席点を主体とする。

授業科目名 : 建築生産  
 科目英訳名 : Building Construction  
 担当教官 : 安藤 正雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0B9  
 開講時限等: 後期水曜 4 限  
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TE:都市環境システムA			専門選択 (F30)	
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 住宅生産を中心に、建築生産を巡る諸問題を概説する。また、建築およびその部位の成り立ち(構法)・造りかた(工法)およびそれらを統合的に取り扱う構工法計画を学ぶ。最後に、生産を運営するためのプロジェクト・マネージメントの考え方と手法を扱う。

[講義内容]

授業科目名 : 構造力学 II  
 科目英訳名 : Structural Mechanics II  
 担当教官 : 村上 雅也  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: TOBA

開講時限等: 後期火曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TE:都市環境システム A			専門選択 (F30)		T2:建築 A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			

[講義目的] 材料力学、構造力学 I の知識をもとに、建築物の柱、梁で構成される架構(ラーメン)に積載荷重、地震荷重などが作用する場合に、その架構の特性によって、柱、梁にどのような応力が起こるかを理解させるために、たわみ角法、定点法、固定法、横力分布係数法などの解法を習得させて建築物の構造安全性を確認する構造設計法の応力解析に対する知識を深めさせる。

[講義内容] 第 1 回 構造力学 II 概説 第 2 回 構造物(ラーメン、トラス)の変形と仮想仕事 第 3 回 ラーメンの一般解法の考え方 第 4 回 たわみ角法(節点移動無) 第 5 回 たわみ角法(節点移動有) 第 6 回 定点法 第 7 回 固定法(節点移動無) 第 8 回 固定法(節点移動有) 第 9 回 中間試験 第 10 回 異形ラーメン(柱、梁の傾斜有) 第 11 回 剛性無限大を含むラーメン 第 12 回 横力分布係数法(D 値法) 第 13 回 建築物の固有周期と固有振動形 第 14 回 建築物の地震時の挙動 第 15 回 最終試験

[履修条件] 無

[教科書・参考書] 武藤清・他 著、「大学課程 建築構造力学」、オーム社 等

[備考] 大綱

授業科目名 : 構造力学演習 II  
 科目英訳名 : Seminar on Structural Mechanics II  
 担当教官 : (中埜 良昭)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: TOBB

開講時限等: 後期火曜 4 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境システム A			専門選択 (F30)	
TF4:デザイン A 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 構造力学 II の講義内容にしたがい、その理解度を深める演習である。

[講義内容] 第 1 回 部材の変形 第 2 回 構造物(ラーメン、トラス)の変形 第 3 回 支点反力 第 4 回 たわみ角法(節点移動無) 第 5 回 たわみ角法(節点移動有) 第 6 回 定点法 第 7 回 固定法(節点移動無) 第 8 回 固定法(節点移動有) 第 9 回 中間試験解説 第 10 回 異形ラーメン(柱、梁の傾斜有) 第 11 回 剛性無限大を含むラーメン 第 12 回 横力分布係数法(D 値法) 第 13 回 建築物の固有周期と固有振動形 第 14 回 復習用問題 第 15 回 最終試験解説

[履修条件] 無

[教科書・参考書] 梅村魁、伊藤勝 著、「構造解析演習」、共立出版 等

授業科目名 : 構造設計 I  
 科目英訳名 : Structural Design I  
 担当教官 : (桜田 智之)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0BC  
 開講時限等: 後期水曜 5 限  
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1996年	1995年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 過去数十年にわたってわが国の大規模建築物のほとんどは鉄筋コンクリート造と鉄骨造によって建設され、木構造は、住宅建築専用の構法とする認識が定着している。この間、欧米の木構造は著しい技術革新がなされ大規模な建築物が次々と出現している。しかし、近年わが国でも木構造の新たな可能性が見直されはじめている。本講義では木構造の設計手法を通して、構造設計の導入としての基礎力を養う。

[講義内容] 1. 在来構法、2×4工法、木質パネル構法、集成材構法等の各種構法 <P> 2. 風圧力、地震力、積雪荷重に対する設計法 <P> 3. 木材資源と環境の問題、強度、比重、含水率、クリープ、ヤング係数等木材の性質 <P> 4. くぎ、ボルト、木ねじ、ラグスクリュー、メタルプレートコネクター等による接合法 <P> 5. 集成材、合板、LVL、OSB、PSL、MDF等のエンジニアリングウッドの性質と性能 <P> 6. 炭化速度、防火、菌害、蟻害、腐朽、保守等木材の耐火性と耐久性 <P>

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 木質構造建築読本 井上書院

授業科目名 : 構造設計 III  
 科目英訳名 : Structural Design III  
 担当教官 : 森田 耕次  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0BD  
 開講時限等: 後期月曜 1 限  
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1995年	1996年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 鋼構造は住宅、店舗等の小規模建物、体育館、集会場、工場等の大スパン建物、並びに、事務所、ホテル、複合用途の高層及び超高層建物等に採用されている最も普及した構造形式である。本科目では、鋼構造の設計、施工に関する基礎的原理を平易に講義し、併せて、鋼構造の応用分野である複合構造についても概説する。

[講義内容]

[教科書・参考書] 第3版「鋼構造設計演習」(社)鋼材倶楽部編、技報堂出版

授業科目名 : 建築設計総合指導 III  
 科目英訳名 : Architectural Design III  
 担当教官 : 全教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0BE  
 開講時限等: 前期木曜 4 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1996年	1995年
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] 規模がより大きく複合的なプログラムの建築と地域のデザインを構想、企画し、計画を定め、総合的にまとめあげていく提案を作成するプロセスを学んでいく。計画に先立つ調査やプレゼンテーションの方法、共同でプロジェクトを進めることもあわせて学習する。

[講義内容]

[履修条件] 建築デザイン III、建築デザイン IV を履修していること。

授業科目名 : 構造設計演習 III  
 科目英訳名 : Seminar on Structural Design III  
 担当教官 : 森田 耕次  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0BF  
 開講時限等: 後期月曜 2 限  
 講義室 : 工 17 号棟 212 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザイン A 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築 A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 構造設計 III の講義に沿って鋼構造の部材及び接合部に関する演習問題を解くことにより、講義の理解を深める。

[講義内容]

[教科書・参考書] 第 3 版「鋼構造設計演習」(社)鋼材倶楽部、技報堂出版

授業科目名 : 建築エスキース III  
 科目英訳名 : Esquisse for Architectural Design III  
 担当教官 : (渡辺 泰男)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C0  
 開講時限等: 前期土曜 2 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザイン A 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築 A	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] 規模がより大きく複合的なプログラムの建築と地域のデザインを構想、企画し、計画を定め、総合的にまとめあげていく提案を作成するプロセスを学ぶためのデザイントレーニングをする。

[講義内容]

[履修条件] 建築設計総合指導 I・II を履修していること。

授業科目名 : 都市・地域計画 II  
 科目英訳名 : City & Regional Planning II  
 担当教官 : 福川 裕一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C1  
 開講時限等: 前期火曜 1 限  
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TE:都市環境システム A				専門選択 (F30)			
TF4:デザイン A 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)			

[講義目的] 都市計画とは、何を目的として、それをどのような手段で達成しようとするのだろうか。講義では、都市および都市計画がこのような課題に時代とともにどのように変わってきたのかを検討し、現在の都市計画の位置を明らかにしたい。そのために、18 世紀以降都市計画がどのように展開してきたかを検討することが中心的作業となる。なお、後期の「都市・地域計画 III」で具体的な課題への展開を行うので、あわせて受講されたい。

[講義内容] (1) 都市計画の立脚点 (4・6・10 の原則)、(2) 18 世紀のプランニング (パリとロンドンを中心に)、(3) 産業革命下の都市と都市計画思想、(4) オスマンによるパリ改造の意味とその影響、(5) 東京市区改正条例、(6) 田園都市論そして近隣住区論、(7) 近代建築家と都市計画、(8) 1919 年都市計画法と震災復興事業、(9) 1968 年都市計画法、(10) 1980 年代からの都市計画の変容、(11) 都市の課題と都市計画: ツールからシステムへ。(1 項目が 2 回にわたる場合がある)

[履修条件] 無

[教科書・参考書] 『近代日本の都市計画百年』(石田頼房、自治体研究社)、『都市にとって土地とは何か』(大谷幸夫編、筑摩書房)、『近代都市計画』(フランソワーズ・ショエ、井上書店)

[備考] 無

授業科目名 : 建築デザイン計画 I  
 科目英訳名 : Architectural Planning I  
 担当教官 : 服部 岑生  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C2  
 開講時限等: 前期月曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 建築づくりのはじめの段階で、建築のデザイン条件、その技術的な条件などを、決定するのに必要な建築の計画を勉強する。デザインのためには、人間の必要とする建築の特性を明らかにし、構造・構法・材料、建築設備、および建築のマネジメントに関する知識を講義する。デザイン計画は、時代の人間の価値意識に関係しているため、環境とかエネルギーの課題、人間社会の安定に関する課題にも、触れながらこれからのデザイン計画を講義する。

[講義内容] (1) 現代の建築の技術とその課題、(2) デザインのプロセスとデザイン計画の課題、(3) 建築の敷地や地域の環境との関わりとデザイン、(4) 耐久的な建築づくりとデザイン計画の方法、(5) デザイン計画の研究の歴史、(6) 建築の空間哲学とデザイン、(7) 現代の科学的なデザイン計画の歴史、(8) デザイン計画の原理、(9) 建築の利用の仕組みとデザイン計画、(10) 建築空間の力とデザイン計画、(11) 建築デザインと環境形成、(12) アカウタビリティ

[履修条件] 建築デザイン計画演習 I を履修すること

[教科書・参考書] 改訂建築計画 (朝倉書店)

授業科目名 : 建築デザイン計画演習 I  
 科目英訳名 : Drill of Architectural Planning I  
 担当教官 : 服部 岑生  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C3  
 開講時限等: 前期月曜 4 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 建築デザイン計画 I の内容について、実際の建築事例から構成した課題を、講義の進行に対応し解答し練習する。

[講義内容] (1) 使用者の利用条件によるデザイン計画 (2) 現代建築のデザイン条件の特徴についての調査 (3) 建築事例のデザイン条件の評価練習 (4) デザイン計画とデザインとの関連の分析

[履修条件] 即日の演習。用具として、色鉛筆、三角定規、物差しを携行する。

授業科目名 : 建築史 III  
 科目英訳名 : History of Architectural Conservation  
 担当教官 : モリス・マーティン  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C4  
 開講時限等: 前期月曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的]

[講義内容]

授業科目名 : 建築史野外演習  
 科目英訳名 : History of Architecture Field Seminar  
 担当教官 : モリス・マーティン  
 単位数 : 4.0 単位  
 履修登録コード: T0C5

開講時限等: 通期集中  
 講義室 :

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的]

[講義内容]

授業科目名 : 建築設備計画 I  
 科目英訳名 : Architectural Equipment I  
 担当教官 : (石渡 博)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C6, T0C7

開講時限等: 前期金曜 4,5 限 隔週 1,3  
 講義室 : 工 9 号棟 207 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 建築・都市と建築設備の関りを理解し、快適で安全な建築環境を創り出す建築設備の考え方とその計画法を習得することを目的とする。

[講義内容] 第 1 回 建築環境と設備環境、第 2 回 都市設備と建築設備、第 3 回 建築・建築設備の総合計画 (1) 第 4 回 同 (2)、第 5 回 各設備の計画 空調・暖房・換気 (1) 冷暖房負荷、第 6 回 同 (2) 空気線図、第 7 回 同 (3) 熱源システム、第 8 回 同 (4) 冷暖房・換気システム、第 9 回 同 (5) 熱の搬送システム、第 10 回 各設備の計画 給排水衛生設備 (1) 水回りの約束事、第 11 回 同 (2) 給水・給湯システム、第 12 回 同 (3) 給水通気システム、第 13 回 各設備の計画 電気設備 (1) 第 14 回 同 (2)、第 15 回 試験

[教科書・参考書] 講義資料を毎回配布する。

授業科目名 : 室内環境計画 II  
 科目英訳名 : Environmental Science of Architecture II  
 担当教官 : (山田 由紀子)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C8

開講時限等: 前期水曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 人間にとって快適な建築空間を創造するため、熱・湿気環境および空気環境に関する基礎知識を概説し、併せて建築設計への応用方法を解説する。また、空気調査衛星計画への橋渡しの役目として基礎知識に触れる

[講義内容]

[履修条件] 原則として建築学の基礎知識のある 3 年生以上

[教科書・参考書] 山田由紀子: 建築環境工学、培風館

授業科目名 : 建築生産演習  
 科目英訳名 : Seminar on Building Construction  
 担当教官 : 安藤 正雄  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0C9  
 開講時限等: 前期木曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 207 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 建築の物的な構成とそのプロセスの基礎を扱うとともに、それらがさまざまなコンテキストにおいてどのように組み立てられるのかを概観する。また、建築生産に関する今日的課題として、設計技術と生産技術の統合、産業構造の変化と技術の変化との関連等について触れる。

[講義内容]

授業科目名 : 材料実験  
 科目英訳名 : Experiments of Building Materials  
 担当教官 : 前田 孝一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0CA, T0CB  
 開講時限等: 前期火曜 3,4 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室, 工 建築学科 実験室, 工 9 号棟 107 教室, 工 建築学科 実験室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] J I S で定められた建築材料の主要な試験方法を講義ならびに実験実習を通じて、学ぶ。

[講義内容] 建築材料の機械的性質，熱的性質，物理化学的性質，耐久性等。

[履修条件] なし

[教科書・参考書] なし

授業科目名 : 構造設計 II  
 科目英訳名 : Structural Design II  
 担当教官 : 野口 博  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0CC  
 開講時限等: 前期金曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 本講義では、鉄筋コンクリート構造の基本的な原理および設計方法を学ぶ。鉄筋をコンクリート中に何故埋め込んで、しっかり定着させなければならないのかという鉄筋コンクリートの常識から、構造設計の考え方、さらには建物の構成部材である柱、はり、床スラブ、耐震壁などの設計法を学ぶ。

[講義内容] 第1回 1.1 鉄筋コンクリート構造を自分で構造設計するためには何を勉強しなければならないか? <P> 1.2 鉄筋コンクリート構造の構造設計の流れ <P> 1.3 鉄筋コンクリートの常識 <P> a コンクリートと鉄筋の強さ <P> b 鉄筋を何故入れるのか? <P> c 鉄筋は曲げモーメント図の側に入れよ。 <P> 第2回 d せん断力によってもコンクリートに引張力が生ずる。 <P> e 鉄筋はよく定着しておくこと。 <P> f 鉄筋コンクリートはよく付着していなければならない。 <P> 第3回 2.1 鉄筋コンクリート部材を設計するにあたって <P> 2.2 使用するコンクリートと鉄筋の強度 <P> 2.3 鉄筋量の求め方に関する基本的な考え方と許容応力度 <P> 第4回 2.4 はり主筋量の求め方 <P> 第5回 <P> 第6回 2.5 使用する鉄筋径および鉄筋本数は適当に決めてはならない。 <P> 第7回 <P> 第8回 2.6 柱主筋量の求め方 <P> 第9回 2.7 はり、柱部材のせん断補強筋(あばら筋、帯筋)の求め方 <P> 第10回 <P> 第11回 2.8 床スラブと小ばりの設計 <P> 第12回 2.9 耐震壁の設計 <P> 第13回 2.10 基礎の設計 <P> 第14回 3. 2次設計の概要 <P> 第15回 テスト <P>

[教科書・参考書] 田中礼治著「鉄筋コンクリートの構造設計入門 - 常識から構造計算まで - 」相模書房

授業科目名 : 構造設計演習 II  
 科目英訳名 : Seminar on Structural Design II  
 担当教官 : 野口 博  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0CD  
 開講時限等: 前期金曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1996年	1995年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 本演習では、簡単な鉄筋コンクリート構造建物の構造設計を実際に自分の手で体験しながら、構造設計 II の講義内容を更に深く理解することを目的とする。

[講義内容] 第 1 回 鉄筋コンクリート構造の基礎知識 <P> 第 2 回 建築物の概要 <P> 設計方針 <P>  
 使用材料と許容応力度、材料強度 <P> 第 3 回 構造計画、設計ルート <P> 第 4 回 断面仮定と  
 剛比算定 <P> 第 5 回 荷重、外力 <P> 鉛直荷重時応力算定 (固定荷重、積載荷重) <P> 第 6  
 回 水平荷重時応力算定 (地震力、風圧力) <P> 第 7 回 大梁の断面算定 <P> 主筋の算定 <P>  
 第 8 回 あばら筋の算定 <P> 付着の検討 <P> 第 9 回 基礎梁の断面算定 <P> 小梁  
 の断面算定 <P> 第 10 回 柱の断面算定 <P> 主筋の算定 <P> 第 11 回 帯筋の算定 <P> 第 12  
 回 スラブの設計 <P> 第 13 回 基礎の設計 <P> 第 14 回 耐震壁の設計 <P> 第 15 回 2 次設計 <P>  
 層間変形角、剛性率、偏心率、保有水平耐力 <P>

[履修条件] 構造設計 II を履修していることが望ましい。

[教科書・参考書] 構造計算書で学ぶ鉄筋コンクリート構造: 上野嘉久著、学芸出版

[備考] 毎回、レポートを提出すること。また電卓を準備すること。

授業科目名 : 建築設計総合指導 IV  
 科目英訳名 : Architectural Design IV  
 担当教官 : 全教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0CE  
 開講時限等: 後期木曜 4 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1995年
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)

[講義目的] プログラムのより複雑で高度な建築のデザインを構想、企画し、計画を定め総合的にまとめあげていく提案を作成する。計画に先立つ調査やプレゼンテーションの方法、共同でプロジェクトを進めることもあわせて学習する。

[講義内容]

[履修条件] 建築デザイン III、建築デザイン IV を履修していること。

授業科目名 : 建築エスキース IV  
 科目英訳名 : Esquisse for Architectural Design IV  
 担当教官 : (飯沼 秀晴)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0CF  
 開講時限等: 後期土曜 2 限  
 講義室 : 工 10-412 製図室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1995年
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)

[講義目的] プログラムのより複雑で高度な建築のデザインを構想、企画し、計画を定め総合的にまとめあげていく提案を作成するためのデザイントレーニングを行う。

[講義内容]

[履修条件] 建築設計総合指導 I・II・III を履修していること。

授業科目名 : 都市・地域計画 III  
 科目英訳名 : City & Regional Planning III  
 担当教官 : 福川 裕一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D0

開講時限等: 後期火曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 207 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 「都市計画とは何か」を基本テーマに近代都市計画の歴史をたどった「都市・地域計画 II」に続いて、この講義では、より具体的に、現代の都市計画の課題をとりあげて、その課題が生ずる背景やメカニズム、それに対する都市計画としての考え方や解決方法を検討していく。講義は、全 4 冊からなる絵本『ぼくたちのまちづくり』を紹介し、1 冊ごとにそれに係わるテーマを 3~4 回にわたって取り上げるといった方法で進める。

[講義内容] (1)『ぼくたちのまち・世界のまち』、(2)建築と都市:個の成立と全体への参加、(3)町並み保存:何をなぜどのように保存するのか、(4)『商店街を救え』、(5)商店街の成立と衰退(6)都市はなぜ成長するか?、(7)人口の基礎理論と予測、(8)『都市へ自然をとりもどせ』、(9)土地利用計画と規制、(10)ケーススタディ [三番瀬]、(11)交通計画の考え方と手法、(12)『楽しいまちをつくった』、(13)ゾーニングとマスタープラン、(14)住宅問題と住宅政策、(15)町づくりを担うのは誰か?

[履修条件] 無

[教科書・参考書] 参考書:『ぼくたちのまちづくり』(福川裕一、岩波書店)、『パターン・ランゲージ』(C. アレキサンダー、鹿島出版会)、『地域モデル入門』(W. ヘイラー、アグロウヒル好學社)、『ゾーニングとマスタープラン』(福川裕一、学芸出版)

[備考] 無

授業科目名 : 建築法規・行政  
 科目英訳名 : Architectural Regulation and Administration  
 担当教官 : (平沢 岩機)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D1

開講時限等: 後期水曜 5 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 実務に就いて建築物の設計、施工等をする場合、あるいは街づくり等に係わる場合、様々な法規制があることに気づかされることとなります。この授業では、建築行政上から見た問題点等を解説するほか、建築基準法を中心にして、建築士法、都市計画法、消防法等の概要を含めて解説することにより、関係する法の全体像を理解してもらうことを目的とする。

[講義内容] 第 1 回 建築行政・建築法規とは 第 2 回 営繕行政に係わる問題等 第 3 回 住宅行政に係わる問題等 第 4 回 建築基準法に関すること(以下同じ)・体系、目的等 第 5 回 建築確認制度・建築士法概要等 第 6 回 構造方法に関する技術的基準等 第 7 回 構造計算の基準等 第 8 回 屋根、外壁、耐火建築物、設備等 第 9 回 耐火構造、防火区画等 第 10 回 避難施設、内装制限、消防法概要等 第 11 回 都市計画法概要等 第 12 回 敷地と道路、用途制限等 第 13 回 建ぺい率、容積率等 第 14 回 高さ制限、日影規制、地区計画、建築協定等 第 15 回 工作物、工事中の安全等

[教科書・参考書] 教科書:講義録 <p> 参考書:建築法規用教材(日本建築学会編・丸善発売)<p> 基本建築基準関係法令集

授業科目名 : 造園学  
 科目英訳名 : Landscape Architecture  
 担当教官 : (油井 正昭)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D2

開講時限等: 後期水曜 4 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF:都市環境システムA				専門選択 (F30)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 人間生活の発達とともに、快適な生活空間を創造することを意図した社会の動向として、庭園、都市の公園・緑地、自然公園など様々な造園空間が創出され発達してきた。これらの造園空間誕生の背景、造園空間の発展過程、造園空間の特性、造園空間創造技術の概要などに関する基礎理論と技術の修得を目的とする。

[講義内容] 第1回 造園空間の発生と分化 1. 庭園の発生、2. 広場の発生 第2回 3. 公園の誕生 第3回 4. 都市公園の成立、5. 自然公園の成立 第4回 わが国の造園空間の発達と特徴 1. 風景式庭園・築山泉水式庭園の成立 第5回 2. 大規模庭園の発達 第6回 3. 禅宗の影響と庭園芸術 第7回 4. 露地庭の完成 5. 回遊式庭園の完成と庭園の普及 第8回 都市の緑地空間 1. 園成立の経緯と背景 第9回 2. 市公園の制度成立と特徴 第10回 3. 災復興公園の特徴 4. 市のオープンスペースと機能 第11回 5. 都市公園の種類と配置 第12回 6. 都市公園の機能と役割 第13回 自然景観の保護と利用 1. 自然公園の風景保護 第14回 2. 自然公園の公園利用 第15回 テスト

[履修条件] 特になし

[教科書・参考書] 造園技術大成(関口監修)養賢堂、緑の計画(福富・石井編)地球社、造園学(高橋・井手他)朝倉書店、造園の事典(田畑・樋渡編)朝倉書店、ランドスケープ体系第1巻~第5巻(日本造園学会編)技法堂出版

授業科目名 : 建築デザイン計画 II  
 科目英訳名 : Architectural Planning II  
 担当教官 : 中山 茂樹  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D3

開講時限等: 後期木曜 1 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 建築計画の理論と手法について解説し、さらに現代の建築(特に公共建築)に求められてさまざまな最新の要求に、計画がどのようにアプローチし、解決しているかについて、研究例や設計例をもとに考える。

[講義内容]

[履修条件] 原則として建築デザイン計画 I を履修済みで、建築デザイン計画の基礎を理解していること。建築デザイン計画演習 II と同時に履修すること。

[教科書・参考書] 未定

授業科目名 : 建築デザイン計画演習 II  
 科目英訳名 : Drill of Architectural planning II  
 担当教官 : 中山 茂樹  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D4

開講時限等: 後期木曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 建築デザイン計画 II の内容について、実際の建築計画の課題から作られた問題を、講義の進行に対応して解決する演習を行う。実際の建築見学を含む。

[講義内容]

[履修条件] 建築デザイン計画 II と同時に履修すること

授業科目名 : 建築史 V  
 科目英訳名 : History of Architecture V  
 担当教官 : モリス・マーティン  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D5

開講時限等: 後期火曜 5 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] ヨーロッパ建築の発展過程の主要な問題点に関する連続講義の後半である。本講義は、古代様式建築の復活を目指した、15世紀イタリアにおけるルネサンス建築を出発点とし、マニエリズム、バロック、そしてクラシックとゴシック・リヴァイヴァルに至る系譜とそれを拒絶したモダニズムの出現を含む、近世・近代ヨーロッパ建築をテーマにしている。他の文化圏におけるヨーロッパ建築の影響も副テーマとして取り上げている。テキストは用いず、スライドとプリントで説明する。

## [講義内容]

授業科目名 : 室内環境計画 III  
 科目英訳名 : Environmental Science of Architecture III  
 担当教官 : (山田 由紀子)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D6

開講時限等: 後期水曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度
	2001年	2000年	1999年	1998年		
TE:都市環境システムA				専門選択 (F30)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)		

[講義目的] 環境工学の内、音環境を騒音防止計画と建築音響計画に分けて概説する。光環境に関しては、採光計画から照明計画までを解説する。劇場や美術館などの実例をスライドで提示したり、テープで実際の音を聞くことを体験してもらい、建築との関わりを理解できるようにする。

## [講義内容]

[履修条件] 原則として、建築学の基礎知識のある3年生以上

[教科書・参考書] 教科書 山田由紀子:建築環境工学、培風館。参考書 前川 純一:建築・環境音響学、共立出版

授業科目名 : 建築設備計画 II  
 科目英訳名 : Architectural Equipment II  
 担当教官 : (斎藤 満)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D7

開講時限等: 後期金曜 5 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 建築電気設備の役割と基礎・計画知識、建築の設計・施工との接点などについて講義する。また、ビルの主要な搬送設備であるエレベータ・エスカレータの仕組みと計画手法、地球環境問題とこれに関連する建築設備の省エネ手法についても講義する。

## [講義内容]

[教科書・参考書] 教科書; 自作の資料を使用する。参考書; 電気設備学会「建築電気設備の計画と設計」。

授業科目名 : 基礎地盤工学  
 科目英訳名 : Foundation Engineering  
 担当教官 : 中井 正一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0D9

開講時限等: 後期金曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF:都市環境システムA				専門選択 (F30)
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 全く空中に浮いた建築物が無いことから分かるように、建物と地盤を切り離して考えることはできない。したがって、建物が安全であるためにはその建物がどのような地盤の上に建てられているかを把握することが大切である。この講義では、まず地盤の性質を理解し、ついで建物と地盤の接点である基礎構造について学ぶ。なお、授業では、理解を助けるために必要に応じて簡単な演習問題を出題する。

[講義内容]

[履修条件] 材料力学を履修していることが望ましい

[教科書・参考書] 山肩邦男：建築基礎工学、朝倉書店

授業科目名 : 構造実験  
 科目英訳名 : Experiments of Structural Engineering  
 担当教官 : 原田 幸博  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0DB, T0DC

開講時限等: 後期火曜 3,4 限  
 講義室 : 工 19 号棟 115 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 構造力学 I と材料力学および構造力学 II などの講義及び演習で学んだ建築構造の基本的な原理について実際に体験してもらう。何種類かの構造モデルについて、試験体の設計・製作・実験結果の予測・実験の遂行と考察・発表までを一貫して、少人数による班編成ごとに行うことを通じて、講義や紙上の演習だけでは得難かった感覚を身につけてほしい。

[講義内容]

[履修条件] 構造力学 I と材料力学および構造力学 II を履修していることが望ましい。

[教科書・参考書] 日本建築学会：構造入門教材ちからとかたち、日本建築学会

授業科目名 : 振動工学  
 科目英訳名 : Engineering Vibration  
 担当教官 : 村上 雅也  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0DD

開講時限等: 前期木曜 1 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[講義目的] 振動工学が建築物の構造設計法の中でどのように使われているかを、また過去の震害のスライドを使ってその重要性を理解させた後、地震動の特性および建物と地盤を対象としたモデル化とその特性について習得させ、さらに建築物の地震時の挙動のシミュレーション解析(地震応答解析)と耐震設計法の知識を深めさせる。

[講義内容] 第 1 回 振動工学概説第 2 回 震害と耐震設計法第 3 回 地震動と建築物の振動概説第 4 回 建築物のモデル化と振動方程式第 5 回 1 自由度系の自由振動第 6 回 多自由度系の自由振動第 7 回 定常的な変位や力による強制振動第 8 回 モーダルアナリシスと刺激関数第 9 回 周波数領域の地震応答解析(伝達関数、フィルタ等)第 10 回 時間領域の地震応答解析(線形加速度法等)第 11 回 ねじれ振動第 12 回 連続体の振動第 13 回 地震動の特性と波形解析第 14 回 地震応答解析と耐震設計法第 15 回 試験

[履修条件] 無

[教科書・参考書] 参考書：多治見宏 著、「建築構造講座 17 建築振動学」、コロナ社 等

授業科目名 : 構造デザイン  
 科目英訳名 : Structural Design  
 担当教官 : (富島 誠司)  
 単位数 : 4.0 単位  
 履修登録コード: T0DE, T0DF  
 開講時限等: 前期木曜 5 限 / 前期金曜 5 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 建物に想定される荷重外力(地震力・風力等)を決定し、これらの作用によって生じる架構骨組の応力変形を算定して断面を設計する。設計された架構の保有する耐力を求め、荷重外力に勝ることを確認する。

[講義内容] 1. 鉄筋コンクリート構造: 課題説明、架構登録 <BR> 2. 鉄筋コンクリート構造: 構造計画についての講義、仮定断面提出 <BR> 3. 鉄筋コンクリート構造: 中間チェック <BR> 4. 鉄筋コンクリート構造: 中間チェック <BR> 5. 鉄筋コンクリート構造: 中間チェック <BR> 6. 鉄筋コンクリート構造: 中間チェック <BR> 7. 鉄筋コンクリート構造: 図面チェック <BR> 8. 鉄筋コンクリート構造: 講評会 <BR> 9. 鉄骨構造: 課題説明、架構登録 <BR> 10. 鉄骨構造: 仮定断面提出 <BR> 11. 鉄骨構造: 中間チェック <BR> 12. 鉄骨構造: 中間チェック <BR> 13. 鉄骨構造: 中間チェック <BR> 14. 鉄骨構造: 図面チェック <BR> 15. 鉄骨構造: 講評会 <BR>

[履修条件] 構造系講義を受講しておくことが望ましい。

[教科書・参考書] 特になし。構造系講義で用いられた教科書・参考書で十分。

授業科目名 : 卒業演習  
 科目英訳名 : Graduation Seminar  
 担当教官 : 全教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0E0  
 開講時限等: 前期集中  
 講義室 : 各研究室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001年	2000年	1999年	1998年
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的]

[講義内容]

授業科目名 : 建築の構造  
 科目英訳名 : Structure of Buildings  
 担当教官 : 全教官  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0EE  
 開講時限等: 前期月曜 4 限  
 講義室 : 工 9 号棟 206 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001年	2000年	1999年	1998年		1996年	1995年
TE:都市環境システムA			専門選択 (F30)		T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)			

[講義目的] 建築物は必要とされる機能が満たされる空間を創出する構造物である。その構造はどのような形をもっているか、その形はどんな断面の部材がどう接合されて作られるのか、また、それに利用される構造材料にはどんなものがあるか、材料に要求される力学的性質は何が等々、これからの建築の設計を学習するに役立つ基本的な概念を学ぶ。

[講義内容]

[教科書・参考書] 教科書「構造用教材」(日本建築学会編)・建築構造(彰国社)

授業科目名 : 先端建築論 I  
 科目英訳名 : Advanced Architectural Studies I  
 担当教官 : (中田 捷夫)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: TOEF  
 開講時限等: 前期水曜 6 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] 建築を学ぶ者が、その学習と卒業後の進路を考えるための科目。第一線で活躍する建築技術者が技術者としての考え方、生き甲斐、学習の仕方、職業の様子などを紹介する。

[講義内容]

授業科目名 : 構造力学 I A  
 科目英訳名 : Structural Mechanics IA  
 担当教官 : 高梨 晃一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: TOFO  
 開講時限等: 後期月曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1996 年
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)
TG:電子機械A			専門選択必修 (F20)			

[講義目的] 建築物にはそれ自身の重量と積載物の重量の他に、積雪による重量と風圧力さらには地震などによる外力と外乱が作用する。これらに対して安全な構造物を作るため、柱や梁にどのような力が作用して、どのように変形するかを知るための力学すなわち構造力学を学習する。

[講義内容]

[履修条件] 構造力学 IA と構造演習 IA は一体のものであり、両者の受講を原則とする。なお、本科目は構造力学 IB・構造演習 IB と同一であるので、構造力学 IB・構造演習 IB の履修は不要である。

授業科目名 : 構造力学 I B  
 科目英訳名 : Structural Mechanics IB  
 担当教官 : 上杉 英樹  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: TOF1  
 開講時限等: 後期月曜 2 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] 建築物にはそれ自身の重量と積載物の重量の他に、積雪による重量と風圧力さらには地震などによる外力と外乱が作用する。これらに対して安全な構造物を作るため、柱や梁にどのような力が作用して、どのように変形するかを知るための力学すなわち構造力学を学習する。

[講義内容] 第 1 回 講義概要, 建築構造の形とその単純化, 構造設計法 <p> 第 2 回 力の表現法, 力の合成・分解 <p> 第 3 回 部材にかかる力 (その 1: 軸力) <p> 第 4 回 部材のひずみと伸び, 平面保持 <p> 第 5 回 部材にかかる力 (その 2: 曲げモーメントとせん断力) <p> 第 6 回 曲げモーメントと曲率, 単純梁の応力と変形 1 (支点反力, 集中荷重) <p> 第 7 回 単純梁の応力と変形 2 (分布荷重) <p> 第 8 回 中間試験 (力の釣り合い, 反力, 応力) <p> 第 9 回 片持ち梁の反力, 応力と変形 (剛節点, 剛支点, 集中荷重, 分布荷重) <p> 第 10 回 静定フレームの反力, 応力と変形 1 (L 形フレーム) <p> 第 11 回 静定フレームの反力, 応力と変形 2 (門形フレーム) <p> 第 12 回 静定フレームの反力, 応力と変形 3 (3 ピン構造) <p> 第 13 回 静定トラスにかかる力, ピン節点, ピン支点 <p> 第 14 回 静定トラスの変形 (仮想仕事の原理) <p> 第 15 回 期末試験 <p>

[履修条件] 構造力学 IB と構造演習 IB は一体のものであり、両者の受講を原則とする。なお、本科目は構造力学 IA・構造演習 IA と同一であるので、構造力学 IA・構造演習 IA の履修は不要である。

[教科書・参考書] 参考書: 田中, 高梨, 宇田川: 建築骨組の力学 (基礎編), 東洋書店 <p> 和泉正哲: 構造力学 1, 培風館 など <p>

授業科目名 : 構造力学演習 I A  
 科目英訳名 : Seminar on Structural Mechanics IA  
 担当教官 : 原田 幸博  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0F2  
 開講時限等: 後期月曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度 1996 年
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	T2:建築A 専門選択必修 (F20)	

[講義目的] 力の釣合い式を用いて、建築物を支える柱・梁に生ずる応力と柱・梁の限界耐力に対する理解を深めることにある。

[講義内容]

[履修条件] 構造力学 IA と構造演習 IA は一体のものであり、両者の受講を原則とする。なお、本科目は構造演習 IB と同一であるので、構造演習 IB の履修は不要である。

[教科書・参考書] 参考書として、建築骨組の力学(基礎編): 田中・高梨・宇田川著: 東洋書店: ¥2680

授業科目名 : 構造力学演習 I B  
 科目英訳名 : Seminar on Structural Mechanics IB  
 担当教官 : 大山 宏  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0F3  
 開講時限等: 後期月曜 3 限  
 講義室 : 工 9 号棟 107 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] 力の釣合い式を用いて、建築物を支える柱・梁に生ずる応力と柱・梁の限界耐力に対する理解を深めることにある。

[講義内容] 第 1 回 演習概要, 構造力学の必要性 <p> 第 2 回 力の表現法, 力の合成・分解 <p> 第 3 回 部材にかかる力(その 1: 軸力) <p> 第 4 回 部材のひずみと伸び, 平面保持 <p> 第 5 回 部材にかかる力(その 2: 曲げモーメントとせん断力) <p> 第 6 回 曲げモーメントと曲率, 単純梁の応力と変形 1 (支点反力, 集中荷重) <p> 第 7 回 単純梁の応力と変形 2 (分布荷重) <p> 第 8 回 中間試験(力の釣り合い, 反力, 応力) <p> 第 9 回 片持ち梁の反力, 応力と変形(剛節点, 剛支点, 集中荷重, 分布荷重) <p> 第 10 回 静定フレームの反力, 応力と変形 1 (L 形フレーム) <p> 第 11 回 静定フレームの反力, 応力と変形 2 (門形フレーム) <p> 第 12 回 静定フレームの反力, 応力と変形 3 (3 ピン構造) <p> 第 13 回 静定トラスにかかる力, ピン節点, ピン支点 <p> 第 14 回 静定トラスの変形(仮想仕事の原理) <p> 第 15 回 期末試験 <p>

[履修条件] 構造力学 IB と構造演習 IB は一体のものであり、両者の受講を原則とする。なお、本科目は構造演習 IA と同一であるので、構造演習 IA の履修は不要である。

[教科書・参考書] 参考書: 田中, 高梨, 宇田川: 建築骨組の力学(基礎編), 東洋書店 <p> 和泉正哲: 構造力学 1, 培風館 など <p>

授業科目名 : 先端建築論 II  
 科目英訳名 : Advanced Architectural Studies II  
 担当教官 : (横田 暉生)  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0F4  
 開講時限等: 前期木曜 6 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度			
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF4:デザインA 建築コース	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)

[講義目的] 建築生産・建築技術分野をリードする技術者・研究者が、実務の世界を概説し、技術開発の最先端を紹介する。講義内容は、ハウジング、外装デザイン、建築生産と情報化の 3 つからなる。

[講義内容]

授業科目名 : 建築数学  
 科目英訳名 : Mathematics for Structural Engineering  
 担当教官 : 前田 孝一  
 単位数 : 2.0 単位  
 履修登録コード: T0F5

開講時限等: 後期火曜 1 限  
 講義室 : 工 9 号棟 106 教室

## 科目区分表

学科 コース	入学年度				学科 コース	入学年度	
	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1996 年	1995 年
TF4:デザインA 建築コース	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)	T2:建築A	専門選択必修 (F20)	専門選択必修 (F20)

[講義目的] 教養の微積分・線形代数に引き続き，建築を学ぶために必要な数学的基礎を学ぶ

[講義内容] ベクトル解析，複素解析，偏微分方程式

[履修条件] なし

[教科書・参考書] なし